看 護 学 部 教 員 業 績 目 録

――2007年１月～12月――

基礎看護学教育研究分野

〔原　著〕

１．植田彩：指導が必要と判断するときの指導者の認識に関する研究−基礎看護実習における指導過程を分析対象として−．千葉看会誌，13(1)，111−118，2007.

〔学会発表抄録〕

２．大井紅菜，佐藤賀子，内藤菜津子，河部房子，植田彩：健康自主管理支援プログラム参加者の認識の変化と支援についての一考察．千葉看第13回学術集会集録，20−21，2007.

３．佐藤賀子，植田彩：脳血管障害後のうつ状態への移行を回避し，うつ状態からの回復過程を促進する看護援助に関する研究−患者の力の発揮に対する看護者の認識に焦点をあてて−．千葉看第13回学術集会集録，22−23，2007.

４．高橋幸子，内藤菜津子，丸茂美智子，植田彩，小坂直子：ターミナル期にある対象の主体性を支える看護援助に関する研究．千葉看第13回学術集会集録，24−25，2007.

５．丸茂美智子，北嶋祥子，植田彩，高橋幸子：看護学生の基礎看護実習におけるセルフケア支援の特徴．千葉看第13回学術集会集録，28−29，2007.

６．河部房子，植田彩，高橋幸子，内藤菜津子，大井紅菜，山本利江：良導絡測定を組み込んだ健康自主管理過程の特徴に関する研究．第59回日本良導絡自律神経学会学術大会抄録集，24，2007.

７．佐藤賀子，植田彩，丸茂美智子，高橋幸子，内藤菜津子，郭暁東，坂本知子，小坂直子：救貧院病院における看護の実現に向けたナイチンゲールの構想～解決策を導くF.Nの思考のプロセス～．ナイチンゲール研究学会第28回集録，25−35，2007.

８．赤沼智子，藤田水穂，高橋幸子，小宮山政敏，野田勝二，根本敬子，岩崎寛，大釜敏正，渡辺敏：緩和ケア病棟においての園芸療法の実施が看護師の仕事上のストレスに与える影響．第27回日看科会学術集会講演集，165，2007.

９．植田彩，辻村真由子，岡本有子，園田芳美，松浦志野，望月由紀，石垣和子：国内文献にみられる排泄に関する看護過程のメタ統合−身体性に着目して−．第27回日看科会学術集会講演集，375，2007.

10. Ogino M., Mori E., Teshima M., Yamamoto T., Sakai I., Takahashi K. & Yoshida C: Development and evaluation of a nursing ethics educational program for graduate schools. 10th East Asian Forum of Nursing Scholars Annual Conference, 68, 2007.

11. Yoshida C., Mori E., Teshima M., Sakai I.,Yamamoto T., Ogino M., & Takahashi K.: Ethical issues in nursing management: critical care in Japan. International Council of Nursing Conference 2007, ICN CD−ROM, C745−B, 2007.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

12. 松浦志野，石垣和子，辻村真由子，植田彩，岡本有子，園田芳美，望月由紀，吉永亜子，高橋久一郎：看護実践における身体性を考える．千葉看会誌，13(1)，128−133，2007.

13. 河部房子，山本利江，高橋幸子，和住淑子，青木好美：当事者参加を取り入れた看護過程展開の演習の企画・実施報告．千大看紀要，29，43−48，2007.

14. 宮﨑美砂子，山本利江：学士課程看護基礎教育のカリキュラム改革−３年に及ぶ取り組み経過とその成果・課題．千大看紀要，29，49−54，2007.

15. 森恵美，手島恵，酒井郁子，吉田千文，荻野雅，山本利江：千葉大学看護学部における日本文化を反映した看護倫理教育の先駆的試み．千大看紀要，29，61−66，2007.

16. 吉本照子，岡田忍，山田重行，緒方泰子，根本敬子，河部房子，石垣和子，竹内比呂也，土屋俊，武内八重子，今田敬子，奥出麻里：日本における看護文献提供環境の改善に関する検討会．千大看紀要，29，73−74，2007.

17．河部房子，植田彩，高橋幸子，内藤菜津子，北嶋祥子，斉藤しのぶ：F.ナイチンゲールの著作から認識を探る研究方法論に関する学び−ナイチンゲール研究学会第27回研究懇談会発表を振り返って−．綜合看護，42(1)，5−16，2007．

〔研究状況〕

当教育研究分野では，理論看護学の立場からナイチンゲール看護論を学問的に追究し，その継承・発展を目指した教育・研究活動を一貫して行なっている．

看護学独自の研究方法論に関するこれまでの研究成果を活用し，植田は，基礎看護実習における指導過程の分析から，指導者が指導が必要と判断するときの認識の特徴を明らかにし，原著論文としてまとめた（1）．また高橋は，ターミナル期にある対象の主体性を支える看護援助（4）について，丸茂は，基礎実習後の学生の記録の分析から，基礎実習において看護学生が行った患者へのセルフケア支援の特徴を明らかにした（5）．

看護技術教育に関する研究も進行中である．河部は，当分野が数年来に渡り継続して実施している，喉頭摘出者の参加を組み込んだ看護過程展開演習について実践報告を行った（13）．

COEサブプロジェクトD「身体機能調整」の一環として取り組んでいる健康自主管理支援システムの開発も継続して行っている．今年は，東洋医学を基盤とする診療所に通院している患者を対象に健康自主管理支援プログラム企画・実施し，プログラム参加者の認識の変化と変化をもたらした支援について明らかにした（2）．また，モニタリング・フィードバック指標としての良導絡の有効性（6）について学会発表を行った．さらに植田は，看護における「身体性」概念のまとめに参加し（12），排泄の看護援助に関する国内文献を元にメタ統合し，身体性について考察した（9）．山本は，サブプロジェクトG「日本型倫理的推論の特徴と看護基礎教育」の成果を報告した（10，11，15）．

ナイチンゲール看護論を学問的に追究する研究も継続して行なっている．河部らは，昨年の研究発表での質疑応答を受け，F．ナイチンゲールの著作から認識を探る研究方法論に関して考察を加えた(17)．また植田らは，『救貧院病院における看護』の読み取りを行い，解決策を導くF．ナイチンゲールの思考のプロセスを分析し，発表した（7）．

この他に山本は，学士課程看護基礎教育のカリキュラム改革についての成果を報告した(14)．

看護教育学教育研究分野

〔原　著〕

1．中谷啓子，本郷久美子，松田安弘，舟島なをみ：学生が知覚する看護師のロールモデル行動に関する研究．東海大学短期大学紀要，40，13−21，2007．
2．吉富美佐江，舟島なをみ：新人看護師を指導するプリセプター行動の概念−プリセプター役割の成文化を目指して−．看護教育学研究，16(1)，1−14，2007．
3．芳我ちより，舟島なをみ：学生間討議を中心としたグループ学習における教授活動の解明−看護基礎教育において展開される授業に焦点を当てて−．看護教育学研究，16(1)，15−28，2007．
4．山下暢子，舟島なをみ，中山登志子，吉富美佐江：実習目標達成を導く教授活動の構造−「看護学実習教授活動理論」の開発に向けた仮説の導出−．看護教育学研究，16(1)，29−37，2007．

〔学会発表抄録〕

5．Miura H., Funashima N.: The construction of theoretical framework for identifying peculiar culture of Japanese hospital nurses. 20th Pacific Nursing Research Conference, 119, 2007.
6．Miura H., Funashima N., Sugimori M., Suzuki S., Yokoyama K: The Relationships between nurses' perception of quality of home health care and their attributes in Japan. 18th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, CD−ROM, 2007.
7．Kameoka T., Miyashiba T., Funashima N., Sugimori M., Miura H., Yokoyama K.: Quality of teaching behaviors of nursing faculty in nursing skills laboratories in Japan. 18th International Nursing Re-

search Congress, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, CD-ROM, 2007.

8．山澄直美，亀岡智美，舟島なをみ：看護学教員対象の継続教育に関する研究の動向-国内文献の分析を通したFDのための課題検討-．日看研誌，30(3)，110，2007.

9．亀岡智美，舟島なをみ，野本百合子，村上みち子：FDの企画運営に携わる看護学教員が直面している活動上の問題．日看研誌，30(3)，112，2007.

10．三浦弘恵，舟島なをみ：教育ニードアセスメントツール-保健師用-の開発．日看研誌，30(3)，137，2007.

11．神田尚子，吉富美佐江，野本百合子：学生が知覚する卓越した看護．第38回日看学会抄録集（看護教育），72，2007.

12．永野光子，三浦弘恵，舟島なをみ，松田安弘：D県内に勤務する看護学教員の教育ニード・学習ニードの現状．第38回日看学会抄録集（看護教育），89，2007.

13．吉富美佐江，舟島なをみ：プリセプターの役割遂行状況自己評価尺度の開発-信頼性・妥当性の検証-．日本看護学教育学会第17回学術集会講演集，182，2007.

14．中山登志子，舟島なをみ：学習活動自己評価尺度-看護学実習用-の開発．日本看護学教育学会第17回学術集会講演集，184，2007.

15．宮芝智子，舟島なをみ：看護技術演習における学習の最適化に必要な教授活動-目標達成場面・未達成場面の学生・教員間相互行為を構成する要素の比較-．看護教育学研究，16(2)，14-15，2007.

16．中谷啓子，村上みち子，舟島なをみ：養護教諭が知覚する養護教諭のロールモデル行動，日本教育学会第66回大会講演集，290-291，2007.

17．山澄直美，三浦弘恵，舟島なをみ：わが国における在宅看護の質の現状-在宅看護に従事する看護職者への継続教育の課題検討に向けて-．第38回日看学会抄録集（地域看護），9，2007.

18．三浦弘恵，舟島なをみ：病院・診療所における院内教育の限界-D県看護協会施設会員に焦点をあてて-．第38回日看学会抄録集（看護管理），20，2007.

19．Miyashiba T., Funashima N.: Learning behavior of students in nursing skills laboratories: qualitative evidence to support faculty development in Japan. 39th Bienial Convention, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, CD-ROM, 2007.

20．Nakayama T., Kameoka T., Funashima N., Hongo K., Miura H., Yamashita N., Sugimori M.: Quality of clinical teaching behaviors of nursing faculty in BSN and ADN programs in Japan: A secondary analysis. 39th Biennial Convention, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, CD-ROM, 2007.

21．Funashima N., Hongo K., Kameoka T., Miura H., Yamashita N., Gorzka P., Nakayama T., Sugimori M.: A cross-cultural research: Role model behaviors of nursing faculty in the United States and Japan, toward enriching faculty development【Symopsium】. 39th Biennial Convention, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, CD-ROM, 2007.

22．吉富美佐江，舟島なをみ：新人看護師を指導するプリセプターの役割遂行状況．第27回日看科学術集会講演集，170，2007.

23．山澄直美，亀岡智美，舟島なをみ：看護学教員対象の継続教育に関する海外の研究内容の分析-FDのための課題検討に向けて-．第27回日看科学術集会講演集，322，2007.

24．中山登志子，舟島なをみ，山下暢子：看護学実習に取り組む学生の学習活動の質の現状．第27回日看科学術集会講演集，324，2007.

〔単行書〕

25．舟島なをみ：質的研究への挑戦．第２版，医学書院，2007.

26．舟島なをみ編著，三浦弘恵著：院内教育プログラムの立案・実施・評価-「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用-．医学書院，2007.

〔報告書〕

27．舟島なをみ：看護継続教育支援システムの開発．平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研

究（B））研究成果報告書，2007.

〔総説・その他〕

28. 舟島なをみ：千葉大学21世紀COEの一成果「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」普及に向けたサテライト拠点の創成．看護展望，32(3)，37-39，2007.
29. 三浦弘恵，舟島なをみ：異文化間共同研究の遂行に向けた成果発信と国際活動の展開-千葉大学21世紀COEプログラムの一環として-．看護教育，48(4)，354-357，2007.
30. 舟島なをみ：院内教育と看護管理．千葉大学21世紀COEプログラムワークショップ「魅力的な院内教育プログラムの実現」抄録集，3-4，2007.

〔研究状況〕

次の9領域に寄与する研究活動を展開した．

①看護教育学研究のための研究方法論洗練：看護概念創出法をはじめとする質的研究の方法論を過去8年間活用する過程でさらに洗練を加え，研究の実例を提示して明らかにし，出版（25）した．

②看護学教員の発達支援に向けた課題の検討：国内外の看護学教員対象の継続教育に関する研究の動向を解明(9，23)し，また，効果的なFDの企画運営を可能にするため，看護学教員の教育ニード・学習ニードの現状（12）や，FDの企画運営に携わる看護学教員が直面する問題を解明（8）した．

③看護学演習・実習における教授活動の質向上：学生間討議を中心としたグループ学習を支援する教授活動（3），看護技術演習における教授活動の質（7），看護技術演習における学習の最適化に必要な教授活動（15），および看護学実習における教授活動の質（20）を解明すると共に，実習目標達成を導く教授活動の構造を表す仮説を導出（4）した．また，看護学教育の対象者である学生理解の促進に向け，学生が知覚する看護師のロールモデル行動（1），学生が知覚する卓越した看護（11）を解明した．さらに，看護技術演習における学生の学習活動を解明（19）した．

④看護学実習に取り組む学生の学習活動支援：看護学実習に取り組む学生の学習活動の質を解明（24）し，また，看護学実習における学習活動自己評価尺度を開発（14）した．

⑤看護学教員が知覚するロールモデル行動の日米比較：日米の看護学教員が知覚するロールモデル行動を比較し，その成果をシンポジウムとして発表（21）するとともに，異文化間共同研究の過程を報告（29）した．

⑥看護職者の職業的発達支援：養護教諭の教育ニードアセスメントツールの開発に向け，養護教諭が知覚する養護教諭のロールモデル行動を解明（16）した．また，在宅看護に従事する看護職者への継続教育が抱える課題を明らかにするために，在宅看護の質を解明（17）した．さらに，保健師の発達支援プログラムの構築に向け，教育ニードアセスメントツール-保健師用-を開発（10）した．加えて，病院に就業する看護師特有の文化を解明（5）した．

⑦看護継続教育プログラムの開発支援：看護継続教育の教育内容体系化に向け，プリセプターの行動を概念化（2）するとともに，役割遂行状況を解明（22）し，これを自己評価するための尺度を開発（13）した．また，看護師が知覚する在宅看護の質と看護師特性との関係を解明（6）した．

⑧病院・看護継続教育機関と共働した教育プログラム開発と発信：病院や看護継続教育機関と連携し開発・検証したキャリア・ディベロップメント支援システム構築の成果として，院内教育プログラムの立案から実施・評価までの過程を著し，出版（26）した．また，システムの普及を可能にするサテライト拠点の創成を提唱（28）し，病院と共同して開催したワークショップにおいて，成果の一端を紹介（30）した．さらに，院内教育の現状を明らかにするため，病院・診療所における院内教育の限界を解明(18)した．

⑨看護継続教育支援システムの開発：医療機関・看護職養成教育機関に所属する看護職者に対する継続教育の充実に向け，平成15年から18年までに，看護師集団・看護学教員集団を診断する測定用具，および看護継続教育プログラム立案モデルを開発した．以上の研究成果を統合し報告（27）した．

機能・代謝学教育研究分野

〔原　著〕

1．Kim T.G. Tochihara Y. Fujita M. & Hashiguchi N.: Physiological responses and performance of loading work in a severely cold environment. International Journal of Industrial Ergonomics, 37, 725–732, 2007.

〔学会発表抄録〕

2．赤沼智子，藤田水穂，高橋幸子，小宮山政敏，野田勝二，根本敬子，岩崎寛，大釜敏正，渡辺敏：緩和ケア病棟においての園芸療法の実施が看護師の仕事上のストレスに与える影響．第27回日看科学学術集会，165，2007．

3．小野真希子，藤田水穂，山田重行：コミュニケーションにおけるストレス認知の変化と共感の影響．日本生理人類学会誌，12(2)，40–41，2007．

4．川崎由理，藤田水穂，山田重行：馬脂油の局所投与によるスキンケア効果．日本生理学会大会発表要旨集，57，244，2007．

5．川崎由理，藤野葉子，伊藤祐子，西野理英，山田重行：馬脂油の有する皮膚機能改善効果．日看研誌，30(3)，100，2007．

6．高松三智子，山中とき子，廣瀬誠子，神尚子，酒巻裕之，近藤壽郎，平山晃康，田中裕二：口腔外科手術のイメージと不安の理解を試みて．第３回歯科・口腔外科看護研究会抄録集，9，2007．

7．田中裕二，根本清次，佐伯由香，増田敦子，美里由紀子，藤田水穂，赤沼智子，根本敬子，石垣和子：表情刺激が生体に及ぼす影響–自律神経活動および主観的感覚尺度を指標にして–．日本看護技術学会第６回学術集会講演抄録集，50，2007．

8．根本清次，田上博喜，原田亜沙美，吉永尚紀，木下博恵，蔵元恵里子，田中裕二：表情電位のトポグラフィについて．日本看護技術学会第６回学術集会講演抄録集，67，2007．

9．吉永亜子，田中裕二：足浴が直腸温変化を介して睡眠を促す作用の検討．日本看護技術学会第６回学術集会講演抄録集，68，2007．

10．吉永尚紀，藤田水穂，田中裕二，根本清次：消灯時の環境が生理機能に及ぼす影響について．日本看護技術学会第６回学術集会講演抄録集，51，2007．

〔単行書〕

11．田中裕二：第２部　療養者の日常生活上の援助–高齢者に焦点を当てて，第５章　在宅看護におけるフィジカルアセスメント，２．フィジカルアセスメントの実際．渡辺裕子（監修），家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅱ（実践編）．日本看護協会出版会，27–129，144–149，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

12．正木治恵，眞嶋朋子，吉本照子，阿部恭子，北池　正，田中裕二，野本百合子，大月恵理子：平成18度千葉大学公開講座「看護におけるキャリア開発の方向と成果」．千大看紀要，29，55–59，2007．

〔研究状況〕

山田（教授）は新しい教育用電子テキスト「研究方法概論」を作製した．また，藤田（助教）とともに大学院生の研究を指導し，「コミュニケーションにおける共感や感情理解の生理心理的影響に関する研究」（３），「馬脂油のスキンケアへの応用に関する実験的研究」（４，５）の成果を学会発表した．

田中（准教授）は看護技術の科学的な検証についての研究を継続している．今年度は消灯時の環境が生体に及ぼす影響についての研究成果を学術集会で発表した（10）．新たに歯科領域における共同研究を開始した（７）．また，在宅看護におけるフィジカルアセスメントに関する単行書の分担執筆に関わった(11)．平成15年度より開始されたCOEのサブプロジェクト「身体機能調整」において，表情の生体に及ぼす影響（６，８）および足浴が睡眠を促す作用（９）についての研究成果を学術集会で発表した．

病態学教育研究分野

〔原　著〕

1．岡田忍，岡本有子，高齢者訪問看護における清潔・感染防止の質評価に関する指標開発（第２報）．－全国の訪問看護師への実態調査－．日本感染看護学会誌，4(1)，27-40，2007．
2．小椋正道，矢野久子，村瀬真由美，岡田忍，和田順子，寺島宏，岡本典子，脇本幸夫，下鶴紀之，古川浩，奥住捷子，溝上雅史，鈴木幹三，訪問入浴における褥瘡患者のMRSA伝播予防策の検討．環境感染，22(2)，91-97，2007．

〔学会発表抄録〕

3．岡田忍，岡本有子，高齢者訪問看護における清潔・感染防止の質評価に関する指標開発．第７回日本感染看護学会学術集会講演集，58-59，2007．
4．岡田忍，玉木由子，中川朋子，西尾淳子，鈴木明子：２週間使い捨てコンタクトレンズおよび保存液・保存ケースの細菌学的汚染と管理方法との関連について．環境感染，22　Supplement，437，2007．
5．岡田忍，鈴木明子，西尾淳子，印田宏子：訪問看護ステーション利用者宅におけるペット飼育の実態について－訪問看護師がみたペット飼育の問題点と利点－．第11回日本在宅ケア学会学術集会講演集，165，2007．
6．岡田忍：震災下での入浴に関するインタビューと入浴困難事例に対する看護師の入浴援助についての文献的検討．千葉大学21世紀COEプログラム　第４回国際シンポジウム　抄録集，40，2007．
7．鈴木明子：手術室における一足制の導入：医療組織文化の観点からの検討，千葉大学21世紀COEプログラム　第４回国際シンポジウム抄録集，43，2007．

〔単行書〕

8．岡田忍（監修）：症状Ｑ＆Ａガイドブック．医学芸術社，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

9．岡田忍：老人訪問看護の質評価指標の開発：ベストプラクティスに基づく評価項目策定および標準化（研究代表者　石垣和子）　平成16～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ））研究成果報告書 p 7-21，2007．

〔研究状況〕

本研究分野では，感染源や感染経路，宿主といった多角的な観点から感染防止に関する研究を行っている．名古屋市立大学の小椋らが中心になって訪問入浴サービスにおける感染防止対策に関して行った仕事を論文にまとめ，発表した（２）．２週間使い捨てコンタクトレンズおよび保存液・保存ケースの細菌学的汚染と管理方法との関連については，保存ケースの乾燥が重要であること，保存液への浸漬に対して抵抗性のある細菌が存在することを明らかにし，学会で発表した（４）．在宅での感染防止対策についても継続して取り組んでおり，岡田は昨年度実施した訪問看護ステーションの職員を対象にした質問紙調査の結果をまとめ，学会発表を行なった（５）．現在は，実際に訪問看護ステーションの利用者宅からの検体採取を開始し，微生物学な検討を中心に研究を進めている．高齢者のスキンケアに関しては，弱酸性洗浄剤による洗浄の効果について花王との共同研究の成果をまとめ，現在投稿中である．また，特別養護老人ホーム職員に入所者のスキントラブルの実態に関するグループインタビューを実施し，その結果にもとづいて，弱酸性洗浄剤を使用した場合の費用対効果の検討を計画している．この他，岡田は訪問看護の石垣，山本らの「高齢者訪問看護の質評価指標の作成」の研究分担者として，清潔と感染防止についての質評価指標作成のプロセスをまとめ（１，９），全国調査の結果を学会で発表した（３）．また，２年間のナーシングカレッジに連載した症状Ｑ＆Ａに加筆し，代表的な症状のメカニズムに関する解説書を監修した（６）．

COEに関しては，岡田が身体機能調整，鈴木が医療組織文化のプロジェクトに所属し，それぞれ第４回国際シンポジウムの分科会で発表を行なった（６，７）．

母性看護学教育研究分野

〔原　著〕

1．森恵美，石井邦子，林ひろみ：不妊治療後の妊婦における母親役割獲得過程．日本生殖看護学会誌，4(1)，26-33，2007.
2．小澤治美，森恵美：母親役割の自信につながる双子の母親としての体験-生後４～８か月の双子を養育中の母親を対象にして-．日本母性看護学会誌，7(1)，19-26，2007.
3．前原邦江，大月恵理子，林ひろみ，井出成美，佐藤奈保，小澤治美，佐藤紀子，荒木暁子，石井邦子，森恵美：乳児をもつ家族への育児支援プログラムの開発-出産後１～３か月の母子を対象とした家族支援プログラムの評価-．千葉看会誌，13(2)，10-18，2007.

〔学会発表抄録〕

4．Mori E.: Motherhood after Infertility in Japan. The XV International Congress of The International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, 101, 2007.
5．Ogino M., Mori E., Teshima M., Yamamoto T., Sakai I., Takahashi K. & Yoshida C: Development and evaluation of a nursing ethics educational program for graduate schools. 10th East Asian Forum of Nursing Scholars Annual Conference, 68, 2007.
6．Yoshida C., Mori E., Teshima M., Sakai I., Yamamoto T., Ogino M., & Takahashi K.: Ethical issues in nursing management: critical care in Japan. International Council of Nursing Conference 2007, ICN CD-ROM, C745-B, 2007.
7．Maehara K., Hayashi H., Otsuki E., Ide N., Sato N., Shimasawa J., Ozawa H., Sato N., Araki A., Ishii K. & Mori E.: Support for New Mothers and Families in Japan: A Group Program at 1-4 Months after Childbirth. The 8th International Family Nursing Conference abstracts, 135, 2007.
8．山室充希，石井邦子：計画外妊娠をした妊婦の母親役割準備行動とその影響要因．第25回千葉県母性衛生学会，12，2007.
9．斎宮有来，石井邦子，高島えり子：出産に立ち会う夫が助産師に求めている基本的ニーズの充足に関する援助について．第25回千葉県母性衛生学会，12，2007.
10．陳東，森恵美：初めての子育てに対する親の受けとめ．第９回日本母性看護学会，64，2007.
11．石井邦子，村本淳子，新道幸恵，大井けい子，森恵美，岩間薫，高橋司寿子：看護系大学の統合カリキュラムによる助産師教育の実態調査．第48回日本母性衛生学会学術集会，155，2007.
12．望月良美，森恵美：働く女性の性周期に応じたセルフケアの実践状況-医療専門職ケースの分析より-．第48回日本母性衛生学会学術集会，220，2007.
13．陳東，森恵美：乳幼児を持つ母親の子育て観と子育てに対する認知的評価の関係探索研究．第48回日本母性衛生学会学術集会，214，2007.
14．村本淳子，新道幸恵，大井けい子，森恵美，石井邦子，岩間薫：４年生大学での助産師教育における統合カリキュラムの良い点と問題点．第27回日看科学会学術集会講演集，202，2007.

〔報告書〕

15．森恵美，手島恵，山本利江，酒井郁子，荻野雅，吉田千文：ワークショップ「アジア文化と看護倫理教育」報告書，2007.
16．前原邦江：乳児をもつ母親への育児支援プログラムの実施と評価-出産後１～３か月の母子を対象とした初期プログラムについて-．平成18年度千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，217-221，2007.
17．新道幸恵，村本淳子，大井けい子，森恵美，石井邦子，高橋司寿子，遠藤俊子，渡部尚子，鈴木幸子，成田伸，佐藤益子，吉澤豊予子，山本あい子：看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標に関する研究．科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書，2007.

〔単行書〕

18. 森恵美：第１章　母性看護の基盤となる概念，第４章　母性看護に必要な看護技術．森恵美（編），系統看護学講座　専門24母性看護学概論　母性看護学［１］．第11版．医学書院，2-47，134-161，2007．
19. 石井邦子：第２章　母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状．森恵美（編），系統看護学講座　専門24母性看護学概論　母性看護学［１］，第11版．医学書院，48-82，2007．
20. 森恵美：第６章　不妊女性への看護カウンセリング．上別府圭子，森岡由紀子（編），サイコセラピューティックな看護．金剛出版，89-100，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

21. 前原邦江，森恵美：“ふれあい”を通して母子相互作用を促す看護介入プログラムの評価-出産後１～４か月の母子を対象として-．千大看紀要，29，9-14，2007．
22. 前原邦江：産褥早期の授乳場面における母親の発話．千大看紀要，29，15-20，2007．
23. 森恵美，手島恵，酒井郁子，吉田千文，荻野雅，山本利江：千葉大学看護学部における日本文化を反映した看護倫理教育の先駆的試み．千大看紀要，29，61-66，2007．

〔研究状況〕

本教育研究分野では，Reproductive　Healthに関連した健康問題を持つ女性や，妊娠・分娩・産褥期などにある女性の健康や母性性の発達を促す看護方法に関する研究を行っている．家族育成期の女性とその重要なパートナーである夫との関係，家族についても調査，検討を重ねている．

森らは，不妊治療後の妊婦21名に面接調査し，母親役割獲得過程の予期的段階について研究した結果を原著論文にまとめて発表した（１）．また，文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B））による，不妊治療を受けている女性への看護研究も継続中である．

COEに関する研究においては，母性看護学教育研究分野教員全員がサブプロジェクトＢ（日本文化型家族支援）に所属し，その成果を発表した（10，13，16，21）．森は国際学会のシンポジウムに招かれ，日本における不妊治療後の母親の母性について発表した（４）．また，平成19年度より，サブプロジェクト横断研究として，「乳幼児期の子どもをもつ家族への育児支援プログラムの開発―地域における包括的家族支援プログラムへの提言―」に取り組み，その研究成果を前原らが原著論文にまとめた（３，７）．

さらに，森はサブプロジェクトＧ（日本型倫理的推論の特徴と看護基礎教育）にも取り組んでおり，その研究成果（６，15，23）を発表した．森は，平成18年度より，共同研究者として文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）「大学院看護教育における日本文化を反映した看護倫理教育プログラムの開発」の研究に着手し，その成果を発表した（５）．

また，平成17年度より開始した助産師教育カリキュラムについての研究をさらに発展させ，平成18年度より，森と石井は，文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B））「看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標に関する検討」（研究代表者：新藤幸恵）にも取り組んでいる．その結果を報告書にまとめた（17）．

前原は文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））を得て「出産後の母子と家族の育児を支援する継続看護プログラムの開発と実践」を実施継続中であり（22），平成19年度から，柏原は文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））を得て「母親が困難感を抱く早期新生児の哺乳行動と児の扱いやすさとの関係」に，高島は文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））を得て「月経前症候群の女性の症状を軽減する看護介入プログラムの実用化」に取り組んでいる．

小児看護学教育研究分野

〔原　著〕

１．中村伸枝，星野美穂，二宮啓子，石井康子，今野美紀，銭淑君：小学校中学年から中学生の生活の満足度（QOL）質問紙の標準化．日本小児保健研究，66(5)，682-687，2007．

2．中村美和，中村伸枝，荒木暁子：小児がんの子どもと家族に対する症状マネジメント看護援助モデルの構成概念と介入の枠組み．千葉看会誌，13(1)，44-52，2007．
3．出野慶子，中村伸枝，金丸友，遠藤数江：１型糖尿病をもつ子どものきょうだいの体験-ファミリーキャンプにおけるきょうだいの話し合いの分析-．千葉看会誌，13(1)，53-60，2007．
4．市原真穂，荒木暁子，佐藤奈保，今野美紀，中村伸枝：乳幼児期の重症心身障害児の気管切開に関する家族の意思決定．千葉看会誌，13(1)，77-84，2007．
5．Shu Chun Chien, Eric Larson, Nakamura N. & Shio J. Lin: Self-Care Problems of Adolescents With Type 1 Diabetes in Southern Taiwan. Journal of Pediatric Nursing, 22(5), 404-409, 2007.

〔学会発表抄録〕

6．Ichihara M., Araki A., Sato N. & Nakamura N.: Family decision-making in Tracheotomy of infant/toddler with severe disabilities. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, CR-ROM, 2007.
7．Sato N., Araki A. & Nakamura N.: Mutual Support between parents of infants and preschool children with special needs. The 8th International Family Nursing Conference, 188, 2007.
8．Araki A., Nakamura N., Endo K., Ogawa J., Kanamaru T., Ichihara M., Sato N., & Konno M.: Decision-Making in Tracheotomy of Infants and Toddlers with severe disabilities: Perspectives of both Families and Professionals. The 8th International Family Nursing Conference, 166, 2007.
9．飯村直子，江本リナ，川口千鶴，中村伸枝，日沼千尋，平林優子：テーマセッション「理事会事業報告：保育関連職種との連携プロジェクト活動報告(1)」．日本小児看護学会第17回学術集会講演集，57，2007．
10．池畑久美子，山崎明子，片山ゆかり，青木久美，市原真穂，荒木暁子：母子入園した母親から見た母親-看護師関係における看護援助の評価に関する一考察．日本小児看護学会第17回学術集会講演集，72，2007．
11．中村美和，中村伸枝，荒木暁子：小児がんの子どもの症状コントロールに影響する看護援助-症状マネジメント看護援助モデル開発に向けて-．日本小児看護学会第17回学術集会講演集，111，2007．
12．荒木暁子，市原真穂，佐藤奈保，中村伸枝，今野美紀，金丸友，遠藤数江，小川純子：乳幼児期の重症心身障害児の気管切開に関する家族の意思決定．日本小児看護学会第17回学術集会講演集，154，2007．
13．中村伸枝，金丸友，出野慶子：糖尿病を持ちながら成長発達する子どもの体験：年少で発症したキャンプ参加者の体験．日本糖尿病教育・看護学会誌，11特別号　第12回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集，231，2007．
14．宮本沙織，中村伸枝，金丸友：学童後期・中学生の１型糖尿病患児に対するインスリン自己注射部位の拡大を促す看護支援の検討．日本糖尿病教育・看護学会誌，11特別号　第12回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集，199，2007．
15．佐藤奈保，荒木暁子，中村伸枝：乳幼児期の障害児をもつ両親の育児における相互協力を促進する看護援助．家族看護学研究　第14回学術集会抄録，13(2)，85，2007．
16．中村伸枝，遠藤数江，金丸友，荒木暁子，小川純子，佐藤奈保：幼児をもつ母親の健康への関心・生活習慣の実態と幼児の食習慣との関連．第54回日本小児保健学会講演集，297，2007．
17．荒木暁子，佐藤奈保，市原真穂，今野美紀，仲西江里奈，金丸友，中村伸枝，遠藤数江，小川純子：乳幼児期の障害児を育てる家族の意思決定における困難とサポート．第54回日本小児保健学会講演集，369，2007．
18．白井丈晶，水野芳子，小川純子，中村伸枝：成人先天性心疾患患者の健康関連QOL-SF36による評価-第１報-．第54回日本小児保健学会講演集，371，2007．
19．金丸友，中村伸枝：糖尿病をもつ学童後期・思春期の子どもの爪切りの実態．第54回日本小児保健学会講演集，266，2007．
20．水野芳子，中村伸枝，荒木暁子：先天性心疾患の乳幼児をもつ母親の困難間とソーシャルサポートの変化．第54回日本小児保健学会講演集，374，2007．

21. 中村伸枝，小林靖幸：第12回日本糖尿病教育・看護学会　市民公開講座「健康と生活習慣に目をむけよう−新しい時代を生きていく高校生の皆さんへ−」．日本糖尿病教育・看護学会誌，11特別号　第12回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集，79−81，2007．
22. 中村伸枝：１型糖尿病をもつ小児・思春期患者のインスリン注射のセルフケアへの支援．第５回日本セルフメディケーション学会講演要旨集，15，2007．

〔報告書〕

23. 荒木暁子，中村伸枝，遠藤数江：千葉大学21世紀COEプログラム「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点―実践知に基づく看護学の確立と展開」サブプロジェクトＢ：日本文化型家族支援　障害のある子どもと家族の看護研究グループ企画ワークショップ「乳幼児期の障害のある子どもと家族を支援する」報告書，1−38，2007．
24. 眞嶋朋子，中村伸枝：千葉大学21世紀COEプログラム「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点−実践知に基づく看護学の確立と展開」終末期がん看護国際ワークショップ−日本文化を反映した終末期がん看護実践モデルの作成にむけて−報告書，1−73，2007．

〔単行書〕

25. 中村伸枝：２．糖尿病とは，３．学校生活，５．糖尿病予防教育．兼松百合子，天野洋子（編），学校関係者のための糖尿病児童生徒支援マニュアル～よりよい学校生活のために～．第１版，青山社，15−26，37−38，85−86，2007．
26. 荒木暁子：第４章　５．在宅療養する小児と家族の理解，渡辺裕子（監），家族看護学を基盤とした在宅看護論．第２版，日本看護協会出版会，103−112，2007．
27. 中村伸枝：第２部小児医療心理学全体にわたる問題　第５章児童・思春期の子ども達のヘルスプロモーション　心理社会的および環境的アプローチ，マイケル・Ｃ・ロバーツ（編）奥山眞紀子・丸光恵（監訳），小児医療心理学．エルゼビア・ジャパン，61−74，2007．
28. 中村伸枝：第３部慢性医療状態：研究と臨床の適用　第17章小児糖尿病の心理学的背景，マイケル・Ｃ・ロバーツ（編）奥山眞紀子・丸光恵（監訳），小児医療心理学．エルゼビア・ジャパン，257−272，2007．
29. 荒木暁子：第４部発達的，行動的，認知的／情緒的状態　第27章小児の摂食の問題，マイケル・Ｃ・ロバーツ（編）奥山眞紀子・丸光恵（監訳），小児医療心理学．エルゼビア・ジャパン，409−424，2007．
30. 荒木暁子：第４部発達的，行動的，認知的／情緒的状態　第30章小児肥満，マイケル・Ｃ・ロバーツ（編）奥山眞紀子・丸光恵（監訳），小児医療心理学．エルゼビア・ジャパン，452−465，2007．
31. 小川純子：気管支喘息，ファロー四徴症，感染性胃腸炎．長谷川雅美，林優子（監），疾患と看護過程実践ガイド改訂版．第２版，医学芸術社，960−971，972−985，986−995，2007．
32. 遠藤数江：川崎病，麻疹．長谷川雅美，林優子（監），疾患と看護過程実践ガイド改訂版．第２版，医学芸術社，996−1007，1008−1019，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

33. 金丸友，中村伸枝：糖尿病をもつ学童・思春期の子どものフットケア．日本糖尿病教育・看護学会誌，11(1)，28−35，2007．
34. 中村伸枝，遠藤数江，荒木暁子，小川純子，金丸友，武田淳子：慢性疾患をもつ学童，青年の食習慣の特徴．千大看紀要，29，21−24，2007．
35. 荒木暁子：障害のある乳幼児とその母親の食事場面における相互作用行動の特徴―時間サンプリング法を用いた頻度分析―，千大看紀要，29，25−31，2007．
36. 中村伸枝：子どもの食発達を支援する看護の原則．小児看護，30(7)，859，2007．
37. 荒木暁子：ひとり食べの獲得と援助．小児看護，30(7)，880−883，2007．
38. 荒木暁子：食事場面における社会的相互作用の発達．小児看護，30(7)，904−909，2007．
39. 中村伸枝：【特集　もしもこんな患者さんに出会ったら　よくある問題別！療養援助の可能性】家族にまつわる問題　共働き家庭の小児患者さん．糖尿病ケア，4(10)，54−58，2007

40. 荒木暁子：【特集　リハビリテーションにおける家族看護】先天障害をもつ子どものリハビリテーションにおける家族看護．家族看護，5(2)，59-64，2007.
41. 竹内幸江，内田雅代，三澤史，駒井志野，大脇百合子，平出礼子，梶山祥子，丸光惠，森美智子，石橋朝紀子，松岡真里，小原美江，小川純子，野中淳子，石川福江，富岡晶子，佐藤美香：小児がんの子どもと家族のケア環境．小児がん看護，2，61-69，2007.
42. 三澤史，内田雅代，竹内幸江，駒井志野，大脇百合子，平出礼子，梶山祥子，丸光惠，森美智子，石橋朝紀子，松岡真里，小原美江，小川純子，野中淳子，石川福江，富岡晶子，佐藤美香：小児がんの子どもと家族のケアに関する看護師の認識-ケア29項目の実施の程度と難しさの認識-．小児がん看護，2，70-80，2007.
43. 小川純子：白血病患児の看護　白血病患児の情報収集ガイド．クリニカルスタディ，28(7)，638-643，2007.
44. 小川純子：白血病患児の看護　ケーススタディ　白血病患児の看護．クリニカルスタディ，28(7)，644-653，2007.

〔研究状況〕

本年度より佐藤が着任し，障害をもつ子どもと家族の研究が充実した（7，15）．本教育研究分野の研究活動として，COEにおいて行ってきた慢性疾患をもつ子どもや緩和ケアを必要とする子どもと家族の研究の成果を発信（2，11，13，24，25）した．また，競争的資金を獲得して行っている研究としては，平成18―21年度科研費（基盤研究C，研究代表者：中村）を得た「母親への健康への関心を高め生活習慣改善を促す支援が，幼児の生活習慣に与える影響」に研究分野全体で取り組んでいる．荒木は，平成17～19年度科研費（基盤研究Ｃ）を得た「乳幼児期の障害児を育てる家族の意思決定を支える支援に関する研究」を進め，成果を発信し（4，6，8，12），平成19年度勇美記念財団在宅医療助成指定公募研究「経営面から見た訪問看護ステーションの考察―小児の訪問看護の採算性にかかわる要因とケアの実際およびケアへの満足度―」についての研究に取り組み始めた．小川は，平成19-21年度科研費（基盤研究Ｃ）を得て「Computer Aided Instructionによる小児がんの子どもの治療への主体性を高める疾患別プログラムの作成」を開始すると共に，小児がんの子どもと家族に関する看護について成果を発信した（42-45）．また，遠藤は，平成19年度科研費（萌芽）を得て「慢性疾患をもつ子どもの成長と骨量の検討」について研究を開始した．

また，本年度は，それぞれの教員がテキストの執筆や翻訳にも多く参画した（26-33）．荒木は，これまでの看護活動や研究成果を生かして子どもの食発達の視点から雑誌の特集を企画すると共に，執筆も行った（37-39）．

成人看護学教育研究分野

〔原　著〕

1．増島麻里子，佐藤禮子：乳がん治療後のリンパ浮腫が患者にもたらす苦悩．千葉看会誌，13(1)，85-93，2007.

〔学会発表抄録〕

2．岡本明美，眞嶋朋子，佐藤禮子：がん術後患者の職場復帰に伴う健康問題解決支援プログラムの開発に関する研究．第27回日看科会学術集会講演集，213，2007.
3．阿部三千代，眞嶋朋子：入院中の肺がん患者の呼吸困難の体験．第21回日本がん看護学会学術集会講演集，120，2007.
4．久永みゆき，佐藤まゆみ，眞嶋朋子：終末期がん患者の全身倦怠感の体験．第27回日看科会学術集会講演集，217，2007.
5．中村英子，増島麻里子，眞嶋朋子：手術を受ける老年期上部消化器がん患者家族が看護師とのコミュニケーションが促進された時に抱いた思い．第27回日看科会学術集会講演集，210，2007.

6．Kamma Y., Majima T., Sato M., Masujima M. & Shibata J.: Experiences of Cancer Patients in Crisis and Nursing Support for the Patients in Japan. Second International Conference Japanese Society of Cancer Nursing, 80, 2007.
7．Shibata J., Majima T., Sato M., Masujima M., Kamma Y., Sakurai C. & Kosaka M.: The Experiences of Japanese family caregivers living with cancer patients in end of life. Second International Conference Japanese Society of Cancer Nursing, 68, 2007.
8．Abe K., Honda A., Kuroda K., Sato M., Akanuma T. & Sato R.: Development and promotion of an educational program for training nurses expert in breast cancer nursing. 2nd International Conference Japanease Society of cancer Nursing, 56, 2007.
9．Abe K., Kuroda K., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for post-mastectomy breast cancer patients. First report: Effects immediately after care implementation. Global Breast Cancer Conference, 230, 2007.
10．Kuroda K., Abe K., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for post-mastectomy breast cancer patients. Second report: Effects three months after care implementation. Global Breast Cancer Conference, 231-232, 2007.
11．Nemoto N., Abe K., Kuroda K., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for elderly breast cancer patients. Who have undergone mastectomy. Global Breast Cancer Conference, 233-234, 2007.

〔報告書〕

12．眞嶋朋子，正木治恵，佐藤まゆみ，増島麻里子，柴田純子，神間洋子：看護系大学院修了生のための支援プログラム開発に関する研究．平成17年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書，2007．
13．佐藤まゆみ，増島麻里子，柴田純子，神間洋子，阿部恭子，菅原聡美，佐藤禮子：再発乳がん患者のQOLを高めるためのサポートグループプログラムの開発に関する研究．平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書，2007．
14．長坂育代，柴田純子，増島麻里子：日本における終末期がん患者と家族の体験-研究プロセスと看護実践モデルの提示．千葉大学21世紀COEプログラム　終末期がん看護国際ワークショップ報告書，44-51，2007．
15．眞嶋朋子，中村伸枝：千葉大学21世紀COEプログラム「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点-実践知に基づく看護学の確立と展開」終末期がん看護国際ワークショップ報告書．2007．

〔単行書〕

16．眞嶋朋子：第Ⅰ部　4コーピング，文化的問題．Joanne K. Itano, Karen N. Taoka（小島操子，佐藤禮子監訳，日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員訳），がん看護コアカリキュラム．医学書院，48-52，2007．
17．佐藤まゆみ：第Ⅰ部　4コーピング，文化的問題．Joanne K. Itano, Karen N. Taoka（小島操子，佐藤禮子監訳，日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員訳），がん看護コアカリキュラム．医学書院，52-57，2007．
18．増島麻里子：第Ⅳ部　17循環の変化：リンパ浮腫，浮腫．Joanne K. Itano, Karen N. Taoka（小島操子，佐藤禮子監訳，日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員訳），がん看護コアカリキュラム．医学書院，290-294，2007．
19．神間洋子：第Ⅵ部　30神経系がん患者の看護ケア，脳腫瘍．Joanne K. Itano, Karen N. Taoka（小島操子，佐藤禮子監訳，日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員訳），がん看護コアカリキュラム．医学書院，527-532，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

20．佐藤まゆみ：がん患者の学習支援．平成19年度千葉大学公開講座「今日のがん患者と家族を巡る課題．

平成19年度千葉大学公開講座講演集，6-9，2007.

21. 佐藤禮子，大室律子，佐藤まゆみ，根本敬子，新野由子，太田節子，門川由紀江，濱野孝子：新人看護職者の看護実践能力を育成する教育プログラム開発　大卒新人看護職者の看護実践能力を育成する教育プログラムの評価．看護管理，17(1)，90-95，2007.
22. 眞嶋朋子：心筋梗塞ホームリハビリテーションの試み-プログラム作成および評価指標の検討-．千葉看第13回学術集会集録，39，2007.

〔研究状況〕

成人看護学教育研究分野では，がん看護，終末期看護，周手術期看護，心疾患看護，COEサブプロジェクト「日本文化型家族支援」ならびに「日本文化型対人援助関係」，COE横断研究「終末期がん看護」，看護系大学院修了者支援に関する研究等を行っている．また，今年度より，がんプロフェッショナル養成プラン「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」に取り組んでいる．

がん看護については，増島が，乳がん治療後のリンパ浮腫が患者にもたらす苦悩について著述し（1），肺がん患者の呼吸困難に関する体験と終末期がん患者の身体症状に伴う体験に関する研究成果（3，4）を，それぞれ発表した．佐藤は，乳がん認定看護師の教育プログラムに関する研究成果と乳がん術後患者の補整具に関する研究成果を国際発信（8，9，10，11）した．また，科学研究費補助金を継続して受けて「外来通院がん患者の主体性を育成・支援する看護実践能力および外来看護実践方法の開発」（基盤研究（B））に取り組んでおり，佐藤は，「再発乳がん患者のQOLを高めるためのサポートグループプログラムの開発に関する研究」（基盤研究（C））については，報告書を完成させた（13）．眞嶋，佐藤，増島，神間は，がん看護に関する書籍の翻訳を行い（16，17，18，19），さらに佐藤は，今日のがん患者の学習支援に関する講演を行った（20）．

周手術期看護については，がん術後患者の職場復帰支援に関する研究成果（2）や，手術を受ける高齢がん患者の家族と看護師のコミュニケーションに関する研究成果（5）を発表した．

心疾患看護については，眞嶋が，セルフケアへの介入研究をテーマとしたパネルディスカッションのパネリストとして，心筋梗塞ホームリハビリテーションの試みを発表した（22）．

COEサブプロジェクト「日本文化型家族支援」における研究では，神間らが，終末期がん患者を抱える家族の体験について国際発信し（6），同じくCOEサブプロジェクト「日本文化型対人援助関係」における研究で，日本における危機的状況にあるがん患者への看護介入について国際発信した（7）．COE横断研究「終末期がん看護」においては，「終末期がん看護国際ワークショップ」を開催し，ワークショップにて，増島らが，終末期がん患者の体験と家族の体験を明らかにした上で，患者と家族に対する看護実践モデルを報告した（14）．眞嶋らは，この「終末期がん看護国際ワークショップ」の成果を報告書にまとめた（15）．

その他，眞嶋は，「看護系大学院修了生のための支援プログラム開発に関する研究」について報告し(12)，佐藤は，新人看護職者の看護実践能力に関する研究成果について著述した（21）．神間は，「外来治療期にある悪性脳腫瘍患者の苦難に即した看護指針の作成に関する研究」（若手研究（B））に継続して取り組んでいる．さらに，がんプロフェッショナル養成プラン「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」においては，がん医療に携わる多職種が交流するシンポジウムの共同開催に参画している．

老人看護学教育研究分野

〔原　著〕

1. 張平平，正木治恵：高齢患者の服薬アセスメントツールの開発-中国での活用を前提として-．老年看護学，11(2)，48-55，2007.
2. 張平平，正木治恵：老年病人服薬能力評估量表的実用性研究．中国現代看護雑誌，155期，1-4，2007.
3. 河井伸子，菅谷綾子，森野愛，今泉香里，柳井田恭子，坂井さゆり，谷本真理子，正木治恵：外国文献の中で言及されたヘルスケアにおける日本の文化的特徴．千葉看会誌，13(1)，119-127，2007.
4. 小澤三枝子，水野正之，佐藤エキ子，高屋尚子，正木治恵，廣瀬千也子，竹尾恵子：新人看護職員研

修の推進に関する研究．国立看護大学研究紀要，6(1)，3-9，2007.

〔学会発表抄録〕

5．正木治恵：糖尿病教育・看護の実践知の集積と融合-美と文化への感性を高めて．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特別号），42，2007.

6．正木治恵：腎不全看護領域の実践知．第10回日本腎不全看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集，17，2007.

7．髙橋良幸，黒田久美子，谷本真理子，田所良之，北島美奈，島田広美，正木治恵：東洋医学的視点をもつ看護師の高齢者の健康の捉え方と評価方法-生活習慣病を有する１事例の事例研究から-．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，73，2007.

8．黒田久美子，北島美奈，田所良之，髙橋良幸，島田広美，谷本真理子，正木治恵：老人医療の経験を通して得られた高齢者の健康アセスメントの特徴　第１報-老人看護専門看護師へのフォーカスグループインタビュー調査より-．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，197，2007.

9．田所良之，髙橋良幸，黒田久美子，北島美奈，島田広美，谷本真理子，正木治恵：老人医療の経験を通して得られた高齢者の健康アセスメントの特徴　第２報-老人専門医への参加観察及びインタビュー調査より-．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，198，2007.

10. 鳥田美紀代，張平平，臼井理恵，高山紘子，谷本真理子，正木治恵：地域文化に根ざした認知症予防教室の開発と実施．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，205，2007.

11. Simizu Y, Kuroda K, Masaki H. & Uchiumi K.: Using meta–data–analysis and q ualitative analysis on nursing practice, the development of the instrument to assess diabetes self–care agency. The 8 th International Interdisciplinary Conference Advances in Qualitative Methods Program, 94, 2007.

12. 柳井田恭子，谷本真理子，正木治恵：糖尿病チームにおける看護師の調整行為の構造化．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特別号），168，2007.

13. 岡崎優子，正木治恵，清水安子，髙橋良幸：女性糖尿病患者の自己の健康管理と主婦役割のあり様．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特別号），227，2007.

14. 黒田久美子，内海香子，清水安子，麻生佳愛，村角直子，森小律恵，正木治恵：糖尿病患者セルフケア能力測定ツールを活用した看護支援プログラムの開発の方向性，日本糖尿病教育・看護学会誌．11（特別号），288，2007.

15. 谷本真理子，太田美帆，三浦美奈子，竹内千鶴子，尾岸恵三子：弁当箱法を活用した食事支援における糖尿病患者の目安形成過程．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特別号），275，2007.

16. 太田美帆，谷本真理子，三浦美奈子，竹内千鶴子，尾岸恵三子：「弁当箱法」を活用した糖尿病食事療法の看護援助の検討．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特別号），276，2007.

17. 飯田直子，高橋千春，谷本真理子：１型糖尿病患者の会における患者同士の話題の特徴．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特別号），200，2007.

18. 張平平，長瀬明日香，高橋良幸，正木治恵：日本と中国における糖尿病患者の身体の捉え方に関する文化差の考察-千葉大学21世紀COE拠点：日本文化型看護学の創出と国際発信-．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特別号），72，2007.

19. 山本裕子，田所良之：筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者が診断目的の検査入院について抱く思い．日本難病看護学会誌，12(1)，76，2007.

20. 堀江一代，田所良之：潰瘍性大腸炎患者が日常生活において経験している困難と対処．日本難病看護学会誌，12(1)，79，2007.

21. Takahashi, Y., Kawai N., Zhang Pinpin, Shimizu Y. & Masaki H.: Extracting cultural element within the process of development a health education class for pre–diabetic people–Analysis the awareness of the body–, International Council of Nursing Conference 2007, ICN. C, 100. C, 2007.

22. Kawai N. & Masaki H.: Understanding Continuity of People with Type 2 Diabetes from their Life History. 10th. East Asian Forum of Nursing Scholars Annual Conference, 60, 2007.

23. 張平平，谷本真理子，正木治恵：高齢患者の服薬能力に対する看護師の自己評価に関する中日比較．第27回日看科学学術集会講演集，379，2007.

24. 谷本真理子：２型糖尿病患者のセルフケアに向けた支援方法の探究−食事支援に弁当箱を活用して．第５回日本セルフメディケーション学会，16，2007．
25. 田所良之：日本文化型看護をとらえるための方法論の模索　異文化生活体験者へのインタビュー調査．千葉大学21世紀COEプログラム　第４回国際シンポジウム抄録，47，2007．
26. 張平平，長瀬明日香，高橋良幸，正木治恵：日本と中国における糖尿病患者の身体の捉え方に関する文化差の考察−千葉大学21世紀COE拠点：日本文化型看護学の創出と国際発信−．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特），72，2007．

〔報告書〕

27. 正木治恵：高齢者の主体的な健康を創出・支援するための老人看護専門技術の評価指標の開発．平成17年度～18年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））研究成果報告書，2007．

〔単行書〕

28. 正木治恵：第１章　糖尿病看護の実践知．正木治恵（監）黒田久美子，瀬戸奈津子，清水安子（編）糖尿病看護の実践知　事例からの学びを共有するために．第１版，医学書院，2−73，2007．
29. 正木治恵，高橋香代子：Ⅰ　高齢者の看護基本技術．正木治恵（編）パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護学実習ガイド，第１版，照林社，2−12，2007．
30. 正木治恵：Ⅱ　高齢者の生活支援．正木治恵（編）パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護学実習ガイド，第１版，照林社，204−209，2007．
31. 田所良之：Ⅰ　高齢者の看護基本技術．正木治恵（編）パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護学実習ガイド，第１版，照林社，61−81，2007．
32. 高橋良幸：Ⅲ　高齢者看護事例の展開．正木治恵（編）パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護学実習ガイド，第１版，照林社，240−244，2007．
33. 鳥田美紀代：Ⅲ　高齢者看護事例の展開．正木治恵（編）パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護学実習ガイド，第１版，照林社，275−281，2007．
34. 柳井田恭子，正木治恵：Ⅲ章　食生活を支える看護．尾岸恵三子，正木治恵（編）食看護学．第１版，医歯薬出版，113−126，2007．
35. 谷本真理子：Ⅱ章　生活習慣としての食習慣．尾岸恵三子，正木治恵（編）食看護学．第１版，医歯薬出版，36−40，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

36. 正木治恵，眞嶋朋子，吉本照子，阿部恭子，北池正，田中裕二，野本百合子，大月恵理子：平成18年度千葉大学公開講座「看護におけるキャリア開発の方向と成果」．千大看紀要，29，55−59，2007．
37. 谷本真理子，黒田久美子，田所良之，北島美奈，高橋良幸，島田広美，正木治恵：看護援助を通して見出される高齢者の健康の特質と要素−慢性病の増悪により入院している高齢患者を対象に−．老年看護学，12(1)，109−116，2007．
38. 島田広美，谷本真理子，黒田久美子，田所良之，北島美奈，高橋良幸，菅谷綾子，正木治恵：高齢者の健康の特質に関する文献検討．老年看護学，11(2)，40−55，2007．
39. 鳥田美紀代，正木治恵：看護者がとらえにくいと感じる高齢者の主体性に関する研究．老年看護学，11(2)，112−119，2007．
40. 谷本真理子，三浦美奈子，太田美帆，竹内千鶴子，尾岸恵三子：文献にみる糖尿病自己管理支援における看護実践評価の現状と課題．東京女子医科大学看護学会誌，2(1)，53−60，2007．
41. 張平平，正木治恵：中国における認知症高齢者看護の現状と課題−文献検討を通して−．千大看紀要，29，67−71，2007．

〔研究状況〕

当研究分野では，老人看護と慢性病患者の看護を２本柱として教育・研究を行っている．

老人看護では，服薬アセスメントツールの開発に関する研究（１，２，23），高齢者の健康アセスメン

トに関する研究（７，８，９），認知症予防教室の開発と実施に関する研究（10），高齢者の健康の特質に関する研究（37，38），高齢者の主体性に関する研究（39），中国における認知症高齢者看護の現状と課題に関する研究（41）取り組み発表した．また，看護学生および新人看護師等を対象とした老年看護学テキスト（29，30，31，32，33）を執筆した．

慢性病看護では，糖尿病者のセルフケア能力を評価するための測定ツールの開発と活用に関する研究（11，14），糖尿病チームにおける看護師の調整行為に関する研究（12），女性糖尿病患者の自己の健康管理と主婦役割のあり様に関する研究（13），弁当箱法を活用した糖尿病食事支援に関する研究（15，16，24），１型糖尿病患者の会における患者同士の話題の特徴に関する研究（17），境界型糖尿病者のための健康教室開発過程における文化的要素の抽出に関する研究(21)，２型糖尿病患者の連続性に関する研究(22)，糖尿病自己管理支援における看護実践評価の現状と課題に関する文献検討（40）に取り組んだ．また，正木は糖尿病看護の実践知に関する著書（28）を執筆し，正木，谷本は食看護学に関する著書（34，35）を執筆した．また，今年度，正木は第12回日本糖尿病教育・看護学会学術集会長を務め（５），第10回日本腎不全看護学会学術集会において教育講演（６）を行った．

難病看護の領域では，筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者が診断目的の検査入院について抱く思いに関する研究（19），潰瘍性大腸炎患者が日常生活において経験している困難と対処に関する研究（20）に取り組んだ．

看護専門職の継続教育やキャリア開発に関する研究活動（４，36）を行った．

また，諸外国との比較から日本の文化的特徴や日本文化型看護を明らかにするための研究活動（３，18，25，26）に取り組んだ．

今年度は，正木が「高齢者の主体的な健康を創出・支援する老人看護専門技術の評価ツールの開発と検証」（科学研究補助金（基盤Ｂ））(27)，谷本が「「弁当箱法」の実践的活用による糖尿病食事療法における目安形成支援モデル開発・評価」（科学研究補助金（基盤Ｃ））を受け，研究を進めている．

精神看護学教育研究分野

〔原　著〕

１．石川かおり，岩﨑弥生：統合失調症をもつ人の地域生活におけるセルフマネジメントを支える看護援助の開発（第二報）　仮説モデルを用いた看護実践におけるセルフマネジメントの課題．千葉看会誌，13(1)，25-34，2007．

〔学会発表抄録〕

２．岩崎弥生，野崎章子，石川かおり，小宮浩美，東本裕美，石沢和恵：精神障害者を対象としたリカバリー志向の援助プログラムの質的な検討．第27回日看科会学術集会講演集，493，2007．

３．岩﨑弥生：差異の向こう側に-人，知恵，文化をつなぐ国際看護-．国際看護研究会第10回学術集会抄録集（基調講演），9，2007．

４．岩﨑弥生，石川かおり，野﨑章子，小宮浩美，東本裕美：精神障害者に対する家族のケア提供に関する質的研究のメタ統合．家族看護学研究，13(2)，108，2007．

５．石沢和恵，岩崎弥生，石川かおり：精神障害者グループホームにおける生活に関する研究-入居者へのインタビューを通して-．第27回日看科会学術集会講演集，492，2007．

６．石川かおり：当事者の強みや力量を生かす看護援助の開発-介入研究の方法と課題に焦点を当てて-．千葉看第13回学術集会集録，37，2007．

７．野崎章子，岩崎弥生，石川かおり，東本裕美，小宮浩美：精神科看護師の実践知識-精神科看護師が認識する「コツ」-．第27回日看科会学術集会講演集，486，2007．

８．野﨑章子，岩﨑弥生，石川かおり，東本裕美，小宮浩美：パキスタンAga Khan Universityにおける持続可能性のある看護教育および地域健康支援．国際看護研究会第10回学術集会抄録集，32，2007．

９．野﨑章子，岩﨑弥生，石川かおり，東本裕美，小宮浩美：精神科看護師の実践知識-精神科看護師が「コツ」として認識する援助．第38回日看会抄録（精神看護），82，2007．

10. 野﨑章子，小泉香里奈：児童精神科看護に関する文献的検討−海外の看護研究における児童精神科看護の様相−．日本児童青年精神医学会48回総会抄録集，230，2007．
11. 大熊一栄，松本真理，今井理，青柳麻衣子，鶴ヶ崎和子，野﨑章子：手術室経験年数別疲労変化の調査−自覚症しらべ・疲労部位しらべを用いて−．日本精神衛生学会MCRT第２回全国研究集会プログラム・抄録集，41，2007．
12. 東本裕美，岩崎弥生，石川かおり，野崎章子，小宮浩美：地域における高齢者を対象とした健康教育に関する文献検討．第27回日看科会学術集会講演集，498，2007．
13. 東本裕美，瀬戸山恵美子，小宮浩美，岩﨑弥生，野﨑章子：精神科看護の対人援助に関わるストレス−離職者調査より−．日本精神衛生学会MCRT第２回全国研究集会プログラム・抄録集，34，2007．
14. 小宮浩美，岩崎弥生，野崎章子，石川かおり，東本裕美：精神科急性期における患者−看護師関係に関する研究−援助場面への参加観察を通して−．第27回日看科会学術集会講演集，273，2007．
15. 小宮浩美，鈴木啓子，石野麗子，岩﨑弥生：精神科看護者が受ける暴力の実態−対人援助に関わるストレスに焦点をあてて−．日本精神衛生学会MCRT第２回全国研究集会プログラム・抄録集，33，2007．
16. Iwasaki, Y., Nosaki, A., Ishikawa, K., Komiya, H., & Higashimoto, H.: Mental health support for nursing students. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, P. 3. 381, 2007.
17. Amagai, M. & Iwasaki, Y.: The familial communication characteristics in the recovery process of adult sons who are socially withdrawn.XIXth World Congress of World Association for Social Psychiatry Prague, A−1−2, Czech Republic, 2007.
18. Amagai, M. & Iwasaki, Y.: The parental experiences in the recovery process of their socially withdrawn adult son. The 13th Annual Qualitative Health Research Conference, 261, 2007.
19. Ishikawa, K., Iwasaki, Y., Nosaki, A., Komiya, H., & Higashimoto, H.: Case–study on community–based nursing care during a period of sudden change in a schizophrenic patient: Focusing on illness self–management of patient. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, P. 2. 122, 2007.
20. Ishikawa K., Iwasaki Y., Nosaki A., Higashimoto H.: Self−management tasks of schizophrenic patients in the community. RCN International Mental Health Nursing conference and exhibition International: Perspectives on Mental Health Nursing conference programe, 63−64, 2007.

〔報告書〕

21. 岩﨑弥生：医療組織文化と看護．平成18年度千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，120−121，2007．
22. 荻野雅，岩﨑弥生，石川かおり，野﨑章子：看護師から見た医療組織文化−看護師の認識する組織風土−．平成18年度千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，131−132，2007．

〔単行書〕

23. 岩﨑弥生：質的研究：事例研究．松木光子，小笠原千枝編（第２版）これからの看護研究−基礎と応用−，78−91，219−231．ヌーヴェルヒロカワ，2007．
24. 岩﨑弥生：自殺予防．川野雅資（監訳），ハンドブック地域精神看護，200−208．ピラールプレス，2007．
25. 石川かおり：第７章　精神科看護ケアの心理学的背景．ゲイル・W・スチュアート，ミシェル・T・ラライア（著），安保寛明，宮本有紀（監訳）金子亜矢子（監修），「看護学名著シリーズ　精神科看護―原理と実践　第８版」．エルゼビア・ジャパン，146−163，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

26. 岩﨑弥生：差異の向こう側に〜人，知恵，文化をつなぐ国際看護〜．国際看護研究会NEWSLETTER，2−10，2007．
27. 岩﨑弥生，石川かおり，野﨑章子：精神障害者との協働による「地域生活を考える会」からの実践報

告．日本精神衛生学会誌こころの健康，22(2)，78，2007.
28. 岩﨑弥生，野﨑章子，石川かおり：地域で生活する精神障害者のリカバリーに関する質的研究．日本精神衛生学会誌こころの健康，22(1)，78，2007.
29. 岩﨑弥生：千葉県健康生活コーディネーター育成研修ｅラーニング用教材（第２章面接技術，第３章精神保健行動の支援-ストレスとの関連から-）．レイル，6-20，2007.
30. 石川かおり，岩﨑弥生，野﨑章子：統合失調症をもつ人の地域生活を支えるための看護-セルフマネジメントに着目した看護実践の分析．日本精神衛生学会誌こころの健康，22(1)，77，2007.

〔研究状況〕

本研究分野では，精神障害をもつ人とその家族を対象として当事者の体験や当事者の力量に焦点を当てた研究を中核として，精神科における対人援助技術や援助システムの開発に関する研究を継続している．また，高齢者や児童，文化的少数派のメンタルヘルスに関する研究，ならびに看護実践および患者―看護師関係に影響をもたらす要因となる医療組織文化に関する研究にも取り組んでいる．

精神障害をもつ当事者への看護援助に関する研究では，2005年より科学研究費補助金の助成を受け，精神障害者のリカバリーの体験を明らかにして，当事者の力を生かしたリカバリーを促す看護援助に関する研究を行い，援助プログラムの実施とその評価を報告した（２，27，28）．また，2007年より科学研究費補助金を受け，病院から地域生活へと移行する時期にある統合失調症患者のセルフマネジメントやセルフマネジメントを支える看護援助を探求し，当事者の強みや力量を生かした看護援助の介入研究の方法と課題について検討し，報告した（１，９，19，20，30）．さらに，グループホームに入居している精神障害者自身の語りから，グループホームにおける生活の実態を当事者の視点から明らかにした（５）．

精神障害者の家族への看護援助に関する研究では，社会的引きこもり成年の親を対象とした研究では，親のコミュニケーションの特徴や経験について探求し，報告した（17，18）．また，質的研究のメタ統合の手法を開発し，この研究方法を用いて精神障害者の家族看護に関する知見を統合し，報告した（４）．

看護師を対象として行った研究においては，看護援助への参加観察によって得た患者-看護師関係を検討し，報告した（14）．また，病院で提供される精神科看護の実践知を探求した（７，９）．

メンタルヘルスに関する研究では，2007年度より地域の高齢者への看護援助に関する研究および児童の精神看護に関する研究において科学研究費補助金をそれぞれ受けており，研究の動向について文献検討の結果を報告した（10，12）．また，看護職者のストレスに関する研究を行い，対人援助に関わる看護職者の身体的疲労や暴力による影響，精神科看護援助に伴うストレス，ならびに看護学生のメンタルヘルス支援などについて報告した（11，13，15，16）．

文化的少数派の健康を支援する看護援助に関する研究では，ホームレスを対象とした健康支援（３，26）やパキスタンにおける健康支援（８）について報告した．

他に，看護実践や患者―看護師関係に影響をもたらす要因となる医療組織文化について，看護師を対象とした研究により看護師の認識する組織風土について明らかにした（21，22）．

地域看護学教育研究分野

〔原　著〕

１．細谷紀子，大室律子，丸山美知子，布施千草：保健医療福祉政策の転換期における保健師の施策化に関する実践知-市町村保健師の経験からの考察-．千葉看会誌，13(2)，1-9，2007.
２．山田洋子：住民のもつ力を判断し地域づくりに向けて活用する看護援助方法．千葉看会誌，13(2)，63-71，2007.

〔学会発表抄録〕

３．Yamada Y., Ide N., Miyazaki M.: Public health nurses' practical knowledge in preventive activities against lifestyle-related diseases-A meta-synthesis study-. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, p 2. 147, 2007.

4．Hosoya N., Miyazaki M.: Factors influencing the use of community participation in creating municipal health plans. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, p. 3. 190, 2007.
5．榊原理恵子，井出成美，佐藤紀子，宮﨑美砂子，山田洋子，細谷紀子，本間靖子，木暮みどり，鶴岡章子，嶋澤順子：健康度の高い高齢者の健康生活の実態−A市75歳高齢者の健康生活実態調査より（第１報）−．第10回日本地域看護学会学術集会講演集，111，2007．
6．山田洋子，井出成美，佐藤紀子，宮﨑美砂子，細谷紀子，本間靖子，榊原理恵子，木暮みどり，鶴岡章子，嶋澤順子：健康度の高い高齢者の社会的サポートネットワークの検討−A市75歳高齢者の健康生活実態調査より（第２報）−．第10回日本地域看護学会学術集会講演集，112，2007．
7．佐藤紀子，井出成美，宮﨑美砂子，山田洋子，細谷紀子，本間靖子，榊原理恵子，木暮みどり，鶴岡章子，嶋澤順子：健康度の高い高齢者のエンパワメントに関連する他者との交流状況の検討−A市75歳高齢者の健康生活実態調査より（第３報）−．第10回日本地域看護学会学術集会講演集，113，2007．
8．本間靖子，宮﨑美砂子：軽度発達障害児とその家族が経験している生活上の課題の特徴−出生から就学前の時期に着目して−．第10回日本地域看護学会学術集会講演集，121，2007．
9．細谷紀子，本間靖子，山田洋子，佐藤紀子，宮﨑美砂子：学士課程における地区活動の看護実践能力習得をめざす地域看護実習方法の検討．第10回日本地域看護学会学術集会講演集，129，2007．
10．井出成美，佐藤紀子，山田洋子，細谷紀子，本間靖子，宮﨑美砂子：高齢者のみ世帯で生活する高齢者のエンパワメントの内容．第10回日本地域看護学会学術集会講演集，185，2007．
11．大澤真奈美，宮﨑美砂子：地域資源利用の意思決定過程の進展に関わる看護援助の構造．第10回日本地域看護学会学術集会講演集，149，2007．
12．安藤継子，佐藤紀子，宮﨑美砂子：生活習慣病予防における対象者の気づきを促すための支援方法．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，294，2007．
13．柳堀朗子，宮﨑美砂子：特定健診・保健指導（確定版）に基づくメタボ総合対策戦略モデル事業実施結果．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，261，2007．
14．宮﨑美砂子，奥田博子，牛尾裕子，春山早苗，藤谷明子，本間靖子：被災時に必要な応援・派遣保健師マンパワー算定基準の試案作成（第１報），第66回日公衛会抄録集，54(10)特，334，2007．
15．大井田隆，武村真治，尾崎米厚，宮﨑美砂子，福島哲仁，櫻井裕：自然災害発生後の２次的健康被害発生防止の保健所等行政機関の役割に関する研究．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，331−312，2007．
16．細谷紀子，宮﨑美砂子：自治体による訪問指導の実際−平成10年度から平成16年度までの推移−．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，364−365，2007．
17．佐伯和子，河原田まり子，和泉比佐子，関美雪，上田泉，宇座美代子，平野かよ子，宮﨑美砂子，池田信子：保健指導者の人材育成プログムの評価（第１報）−職場組織の育成に焦点を当てて−．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，379，2007．
18．和泉比佐子，佐伯和子，河原田まり子，関美雪，上田泉，宇座美代子，平野かよ子，宮﨑美砂子，池田信子：保健指導者の人材育成プログムの評価（第２報）−指導者の自己効力感に焦点を当てて−．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，379，2007．
19．山田洋子，井出成美，宮﨑美砂子，大澤真奈美：文化的視点を考慮した生活習慣病予防活動の方法−文献にみる保健師の実践知の統合−．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，383，2007．
20．井出成美，佐藤紀子，山田洋子，細谷紀子，本間靖子，嶋澤順子，鶴岡章子，木暮みどり，榊原理恵子，宮﨑美砂子：健康高齢者社会的サポートネットワークと介護予防支援．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，511−512，2007．
21．本間靖子，佐藤紀子，宮﨑美砂子，細谷紀子，山田洋子，井出成美，嶋澤順子，鶴岡章子：エンパワメントと社会的サポートネットワークの概念の関係性の検討−文献検討より−．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，512，2007．
22．佐藤紀子，本間靖子，嶋澤順子，鶴岡章子：子育て家族に対する保健師の援助に関与する文化的要素．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，453−454，2007．
23．杉田由加里，井出成美，佐藤紀子：介護予防に関わる地域特性を反映させた保健師の活動内容．第66回日公衛会抄録集，54(10)特，535−536，2007．

24. 細谷紀子，大室律子，丸山美知子，布施千草：保健医療福祉政策の転換期における市町村保健師の施策化に関する実践知　第１報−施策化の実践内容．第27回日看科会学術集会講演集，405，2007.
25. 丸山美知子，大室律子，細谷紀子，布施千草：保健医療福祉政策の転換期における市町村保健師の施策化に関する実践知　第２報−施策化の実践による変化．第27回日看科会学術集会講演集，406，2007.
26. 小川雅代，宮﨑美砂子：高齢者夫婦世帯介護者の介護感の特徴．第27回日看科会学術集会講演集，425，2007.
27. 河原田まり子，佐伯和子，和泉比佐子，関美雪，上田泉，宇座美代子，平野かよ子，宮﨑美砂子：リーダーシップ能力の変化からみた保健師指導者現任教育の効果．第27回日看科会学術集会講演集，498，2007.
28. Marutani M., Miyazaki M.: Culturally Appropriate Care to Prevent Life–style Related Diseases in Japanese Rural Area–Qualitative Analysis of Health Counseling–. The 1st Korea–Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 125−126, 2007.
29. Osawa M., Yamada Y., Ide N., Miyazaki M.: A Method for Lifestyle–Related Diseases Prevention Activities with regard to Cultural Viewpoints. The 1st Korea–Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 181, 2007.

〔報告書〕

30. 宮﨑美砂子，佐藤紀子，細谷紀子，山田洋子，本間靖子，牛尾裕子，石川麻衣：保健活動における訪問指導の効果的推進方法に関する研究(研究代表者宮﨑美砂子)．平成16−18年度科学研究費補助金(基盤研究（C）（２））研究成果報告書，2007.
31. 宮﨑美砂子，本間靖子：健康危機管理における保健師のキャリア・ラダーの検討，厚労科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）「保健師指導者の育成プログラムの開発」（主任研究者佐伯和子）平成18年度総括・分担報告書，17−25，2007.
32. 宮﨑美砂子，本間靖子：被災時に必要な保健師マンパワー算定基準の試案作成，厚労科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）「自然災害発生後の２次的健康被害発生防止及び有事における健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究」（主任研究者大井田隆）平成18年度総括・分担報告書，109−122，2007.
33. 宮崎美砂子：生活習慣病予防に対する保健指導技術の検討−動機づけ支援および積極的支援における保健指導技術に焦点をあてて−，厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）「生活習慣病予防における効果的な保健指導技術に関する研究」（主任研究者金川克子）平成18年度総括研究報告書，63−77，2007.

〔単行書〕

34. 宮﨑美砂子：第４章保健指導の企画立案・評価の実施．金川克子，津下一代，鈴木志保子，宮﨑美砂子（編），新しい特定健診・特定保健指導の進め方　メタボリックシンドロームの理解からプログラム立案・評価まで．初版，中央法規，141−167，2007.
35. 佐藤紀子：第５章多職種協働による保健指導の質の向上．金川克子，津下一代，鈴木志保子，宮﨑美砂子（編），新しい特定健診・特定保健指導の進め方　メタボリックシンドロームの理解からプログラム立案・評価まで．初版，中央法規，195−206，2007.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

36. 佐藤紀子：家族のケア力を高める看護援助．家族看護，5(1)，30−36，2007.
37. 細谷紀子，本間靖子，山田洋子，佐藤紀子，宮﨑美砂子：学士課程における地区活動の看護実践能力習得をめざした地域看護実習方法．千大看紀要，29，33−41，2007.
38. 宮﨑美砂子，山本利江：学士課程看護基礎教育カリキュラム改革−３年に及ぶ取り組み経過とその成果・課題．49−54，千大看紀要，29，33−41，2007.
39. 宮﨑美砂子：医療制度改革が看護に与える影響−保健行政，インターナショナル・ナーシングレ

ビュー，30(3)，73-78，2007.
40. 宮崎美砂子：特集これからの保健指導ここがポイント！メタボリックシンドローム対策統合戦略事業（モデル事業）の取組から．保健師ジャーナル，63(6)，492-496，2007.
41. 宮崎美砂子：教育講演これからの生活習慣病予防活動-平成20年度から始まる特定健診・特定保健指導を視野に入れて-．第12回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集，46，2007.
42. 宮崎美砂子：シンポジウム２生活習慣病予防に対する保健指導の研究課題と対処の戦略，第27回日看科学学術集会講演集，108，2007.

〔研究状況〕

地域看護学教育研究分野では，COEサブプロジェクト「日本文化型地域健康支援」における研究や，行政サービスを担う保健師の活動方法，地域看護学の教育方法に関する研究を継続して実施している．

COE研究では，地域健康支援における予防活動の看護実践知の体系化をめざして研究を継続し，学会発表（３，５，６，７，10，19，20，21，22，23，29）や，「高齢者のエンパワメントと地域のサポートネットワーク-地域文化に根ざした介護予防実践に向けて-」と題したシンポジウムを開催した．また，政策形成に関する一次研究も継続して取り組んでいる（１，４，24，25）．

教育研究では，地域看護総合実習における教育方法の評価を行い発表した（９，37）．

宮崎は，厚生労働科学研究費補助金による「保健師指導者の育成プログラムの開発」「自然災害発生後の２次的健康被害発生防止及び有事における健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究」「生活習慣病予防における効果的な保健指導技術に関する研究」において，分担研究者として取り組んでいる（14，15，17，18，27，31，32，33）．

また，平成16年度より文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）を受けて，宮崎が研究代表者として実施してきた「保健活動における訪問指導の効果的推進方法に関する研究」の最終年度であり，研究成果報告書をまとめた．(16，30)．平成19年度からは，「地域看護実践における予防的戦略の構造と技術の体系化」（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｃ））に取り組んでいる．

また，宮崎は，厚生労働省「標準的な健診・保健指導の在り方に関する検討会」のメンバーの経験を踏まえ，これからの保健師業務について論じた（39，40，41，42）．

佐藤は，平成18年度より文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）を受け，「高齢者のための社会的サポートネットワークを促進する保健師活動方法に関する研究」に取り組んでいる．

細谷は，「住民とのパートナーシップによるコミュニティ・エンパワメントの前提・実現要因の解明」について，山田は，「地域住民との協働による生活習慣病予防プログラムの開発」について，本間は，「予防を重視した育児支援におけるヘルスニーズアセスメント指標の解明」について，それぞれ文部科学省科学研究費補助金（若手研究Ｂ）を受け，調査研究に取り組んでいる．

訪問看護学教育研究分野

〔原　著〕

１．山本則子，岡本有子，鈴木育子，岡田忍，石垣和子：高齢者訪問看護における家族支援に関する質指標の開発．家族看護学研究，13(1)，19-26，2007.
２．園田芳美，石垣和子：癌末期高齢者のターミナルケアにおける家族間調整に関する質的研究-終末期の療養場所選択に焦点をあてて-．千葉看会誌，13(1)，102-110，2007.
３．藤田淳子，山本則子，石垣和子：誤嚥性肺炎の予防が必要な要介護者に対する訪問看護師の支援．老年看護学，12(1)，13-20，2007
４．石川ひろの，柏木聖代，福井小紀子，松浦志のぶ，川越厚．在宅がん末期患者のケアにおける訪問看護師と医師との連携に関する研究．プライマリ・ケア，30(3)，242-247，2007.
５．伊藤隆子：ケアマネジメントに関わる看護職者が経験する倫理的ジレンマとその対処方法．千葉看会誌，13(2)，45-53，2007.

〔学会発表抄録〕

6．藤田淳子，山本則子，石垣和子：訪問看護師による誤嚥性肺炎予防のための支援．第30回プライマリケア学会抄録集，148，2007．

7．山本則子，藤田淳子，篠原裕子，園田芳美，石垣和子：高齢者訪問看護質指標（家族支援）の妥当性検討(1)−訪問看護師への調査から．日本家族看護学会第14回学術集会抄録，59，2007．

8．山本則子，片倉直子，藤田淳子，篠原裕子，園田芳美，石垣和子：高齢者訪問看護質指標(家族支援)の妥当性検討(2)−看護記録および家族への質問紙調査から．日本家族看護学会第14回学術集会抄録，60，2007．

9．小笹優美，磯部有紀子，園田芳美，松川仙奈，山本則子，本田彰子，辻村真由子，篠原裕子，藤田淳子，片倉直子，石垣和子：在宅療養を支える家族介護者の介護への対処法の習得−家族介護者の看護ニーズ抽出に向けたメタ分析−．日本家族看護学会第14回学術集会抄録，73，2007．

10．伊藤隆子，石垣和子，山本則子：看護職ケアマネジャーに倫理的ジレンマをもたらす家族の要因，日本家族看護学会第14回学術集会抄録，106，2007．

11．井上洋士，石垣和子，山本則子，鈴木育子，片倉直子，伴真由美，新井香奈子，上野まり，胡秀英，岡本有子：全国の看護師養成機関における在宅看護論教育の現状と問題点に関する調査研究．第66回日公衛会抄録集，384，2007．

12．石垣和子，上野桂子，本田彰子，上野まり，鈴木育子，井上洋士，伊藤隆子，岡本有子，中野夕香里：障害者手帳，療育手帳所持者への訪問看護サービス提供に関する調査研究．第66回日公衛会抄録集，400，2007．

13．金川克子，石垣和子，佐伯和子，村嶋幸代，田村須賀子，曽根志穂，金子紀子：地域看護学の教育体系の構築に関する研究（その１）　諸外国との比較．第66回日公衛会抄録集，661，2007

14．園田芳美，石垣和子：明確な意思表示のできない終末期高齢者のターミナルケア−終末期高齢者と家族の思いを読み解く訪問看護．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，82，2007．

15．山本則子，片倉直子，藤田淳子，篠原裕子，園田芳美，金川克子，伴真由美，石垣和子：高齢者訪問看護質指標（認知症ケア）の検討(2)−看護記録及び家族への質問紙調査から−．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，99，2007．

16．鈴木裕恵，金川克子，佐藤弘美，伴真由美，天津栄子，浅見美千江，石垣和子，山本則子：認知症高齢者訪問看護の質評価指標を用いた看護実践の現状−Ｉ県における訪問看護ステーションの調査から−．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，121，2007．

17．植田彩，辻村真由子，岡本有子，園田芳美，松浦志野，望月由紀，石垣和子：国内文献にみられる排泄に関する看護過程のメタ統合−身体性に着目して−，第27回日看科会学術集会講演集，75，2007．

18．鈴木育子，大脇万起子，宮崎孝子，石垣和子：知的障害者の自立を支援する看護の検討，第27回日看科会学術集会講演集，201，2007．

19．山本則子，片倉直子，藤田淳子，篠原裕子，園田芳美，緒方康子，永野みどり，石垣和子：高齢者訪問看護質指標（褥瘡ケア）の開発：看護記録による実態調査．第27回日看科会学術集会講演集，226，2007．

20．石垣和子，鈴木育子，上野桂子，山本則子，緒方康子，上野まり，伊藤隆子，中野夕香里：滞在時間区分別の訪問看護師の訪問時間の特徴と滞在時間に影響する要因に関する調査研究，第27回日看科会学術集会講演集，273，2007．

21．片倉直子，野田勝二，大釜敏正，小宮山政敏，本田彰子，根本敬子，山本則子，石垣和子，精神障害者社会復帰施設の利用者への健康相談と園芸作業をとりいれたプログラムの効果と看護の役割との関連．第27回日看科会学術集会講演集，277，2007．

22．Fukui S. & Ogawa K.: Efficacy of a nurse–supported communication skills intervention on patient psychosocial distress after cancer diagnosis. 2nd WORLD CONFERENCE OF STRESS, 23–26, 2007.

23．Tsujimura M., Akanuma T. Nemoto K. Honda A., Suzuki I., Ishigaki K. & Yamamoto–Mitani N.: A National Survey on the Quality of Home Care Nursing for Older Adults with Bowel Dysfunction in Japan. 10th East Asian Forum on Nursing Science（EAFONS）Annual Conference, 52, 2007.

24．Okamoto, Y., Okada, S., Suzuki, I., Ishigaki, K., & Yamamoto–Mitani, N.: National survey on the qual-

ity of home care nursing for older adults with urinary incontinence. 10th East Asian Forum on Nursing Science (EAFONS) Annual Conference 53, 2007.

25. Fujita. J., Shinohara. Y., Tsujimura. M., Katakura N., Matsukawa K., Sonoda Y., Ozasa Y., Isobe Y. Yamamoto–Mitani N., & Ishigaki K.: Factors affecting whether Japanese Family Caregivers would Entrust their Caregiving Duties to Others, A Qualitative Meta–Sutudy. 10th East Asian Forum on Nursing Science (EAFONS) Annual Conference, 64, 2007.
26. Sonoda Y. & Ishigaki K.: How Do Japanese Home Care Nurses Assist the Elderly with Advanced Cancer and their Families ? –Focus on Coordinating Different Attitudes to the Place to Die. The 8th International Family Nursing Conference Book, 80, 2007.
27. Ito R., Yamamoto–Mitani N. & Ishigaki K.: How Japanese Nurse Care Managers Experience Ethical Dilemmas in Assisting Families in Japan.The 8th International Family Nursing Conference Book, 167, 2007.

〔報告書〕

28. 石垣和子，山本則子，他：老人訪問看護の質評価指標の開発：ベストプラクティスに基づく評価項目策定及び標準化（研究代表者：石垣和子）．平成16–18年度　文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）研究成果報告書，2007.
29. 石垣和子，山本則子，本田彰子，根本敬子，片倉直子：地域で生活する障害児・者の自立生活を支援する看護プログラムの開発–居住型モデルの開発・実践–（主任研究者：杉下知子）．平成18年度厚生労働省科学研究費補助金　医療安全・医療技術評価総合研究事業　報告書，22–33，2007.
30. 石垣和子，山本則子，本田彰子，根本敬子，片倉直子：地域で生活する障害児・者の自立生活を支援する看護プログラムの開発–居住型モデルの開発・実践–（主任研究者：杉下知子）．平成16–18年度度厚生労働省科学研究費補助金　医療安全・医療技術評価総合研究事業　総合報告書，21–28,2007.
31. 石垣和子，他：地域看護学の教育体系の構築に関する研究–諸外国との比較から–（研究代表者：金川克子）．平成17–18年度科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）研究成果報告書，135–146，2007.
32. 山本則子，石垣和子：痴呆高齢者家族の効果的な社会資源の活用を実現する支援方法開発のための質的研究（研究代表者　山本則子）．平成17–18年度科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）研究成果報告書,2007.
33. 福井小紀子他：在宅高齢者のターミナル期における介護，看護のあり方に関する研究．平成18年度老人保健健康増進等事業報告書，日本医療経済機構，2007.
34. 福井小紀子他：訪問看護ステーションに係わる介護保険サービスにおける看護提供体制のあり方に関する研究，訪問看護ステーションの業務基準に関する検討　１）がん緩和ケア．平成18年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金報告書，社団法人全国訪問看護事業協会，15–39，2007.
35. 福井小紀子：在宅療養者の看取りにおける訪問看護師と医師との連携に関する研究：在宅療養者の看取りにおける訪問看護師と医師との連携に関する海外の実態調査–諸外国における在宅緩和ケアに携わる看護師教育の状況と日本への示唆–．厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業，平成18年度報告書第一分冊，9–27，2007.

〔単行書〕

36. 福井小紀子：第５章 皮膚，毛髪，爪．操華子監訳，フィジカルアセスメント．エルゼビア・ジャパン，39–57，2007.
37. 福井小紀子：第17章 男性器．操華子監訳，フィジカルアセスメント．エルゼビア・ジャパン，231–239，2007.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

38. 片倉直子，山本則子，石垣和子：統合失調症をもつ利用者に対する効果的な訪問看護の目的と技術に関する研究，日看科会誌，27(2)，81–91，2007.
39. 福井小紀子：入院中末期がん患者の在宅療養移行の検討に関連する要因を明らかにした全国調査．日看科会誌．27(2)，92–100，2007.

40. 福井小紀子：入院中の末期がん患者の在宅療養移行の実現と患者・家族の状況および看護支援・他職種連携との関連性の検討：在宅療養移行を検討した患者を対象とした二次分析の結果．日看科会誌．27(3)，48-56，2007.
41. 胡秀英，石垣和子，山本則子：帰国10年以上の中国帰国者１世およびその中国人配偶者の精神的健康とその関連要因，日公衛会誌，54(7)，454-464，2007.
42. 辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，根本敬子，本田彰子，石垣和子，山本則子：排便ケアに関する質指標の構築と標準化（第１報）質指標作成のプロセス．看護研究，40(4)，309-316，2007.
43. 辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，根本敬子，本田彰子，石垣和子，山本則子：排便ケアに関する質指標の構築と標準化（第２報）全国の訪問看護師を対象とした実態調査による実践への適用可能性の検討．看護研究，40(4)，317-326，2007.
44. 岡本有子，鈴木育子，岡田忍，石垣和子，山本則子：排尿ケアに関する質指標の構築と標準化．看護研究，40(4)，29-44，2007.
45. 鈴木育子，岡本有子，岡田忍，石垣和子，山本則子：睡眠障害へのケアに関する質指標の構築と標準化．看護研究，40(4)，45-57，2007.
46. 根本敬子，辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，本田彰子，山本則子，石垣和子：慢性疼痛ケアに関する質指標の構築と標準化．看護研究，40(4)，59-71，2007.
47. 伴真由美，鈴木祐恵，金川克子，天津栄子，佐藤弘美，細川淳子，伊藤麻美子，松平裕佳，石垣和子，山本則子：認知症ケアに関する質指標の構築と標準化．看護研究，40(4)，73-84，2007.
48. 福井小紀子．海外の在宅緩和ケアに関する看護師教育事情②：米国，オーストラリア，英国，日本の状況の比較．がん看護，12(7)，730-734，2007.
49. 福井小紀子．海外の在宅緩和ケアに関する看護師教育事情①：米国，オーストラリア，英国，日本の状況の比較．がん看護，12(6)，633-636，2007.
50. 福井小紀子，高沢洋子，伊藤美緒子，川越博美：〔特集〕在宅緩和ケアを支える訪問看護ステーションの条件　訪問看護ステーションに求められる緩和ケアとは．コミュニティケア，9(9)，16-23，2007.
51. 福井小紀子，宮下光令，清水準一，山岸暁美，高沢洋子，伊藤美緒子：〔特集〕在宅緩和ケアを支える訪問看護ステーションの条件　がん緩和ケア基準の作成とその経緯．コミュニティケア，9(9)，24-33，2007.
52. 福井小紀子：がん終末期ケアにおける医療連携の現状と課題　病院看護師と訪問看護師への期待．病院，66(5)，397-402，2007.
53. 福井小紀子：がん告知後の患者への支援：がん検診機関の保健師によるコミュニケーションスキルを用いた支援プログラムとその効果の検討．公衆衛生，71(1)，36-39，2007.
54. 福井小紀子，田中千賀子：在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第15回　看取りのケア法②　終末期のケア．訪問看護と介護，12(12)，1040-1045，2007.
55. 福井小紀子，田中千賀子：在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第14回　看取りのケア法①　終末期のケア．訪問看護と介護，12(11)，956-961，2007.
56. 福井小紀子，田中千賀子：在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第13回　医療処置法⑥　在宅酸素療法，吸引，吸入．訪問看護と介護，12(10)，870-876，2007.
57. 福井小紀子，田中千賀子：在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第12回　医療処置法⑤　持続注入法，尿道・膀胱・腎臓カテーテル法．訪問看護と介護，12(9)，788-793，2007.
58. 福井小紀子，田中千賀子：在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第11回　医療処置法④　経管栄養法．訪問看護と介護，12(8)，694-699，2007.
59. 福井小紀子，田中千賀子：在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第10回　医療処置法③　点滴（中心静脈栄養法）．訪問看護と介護，12(7)，602-607，2007.
60. 福井小紀子，田中千賀子：在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第９回　医療処置法②　点滴（末梢静脈栄養法）．訪問看護と介護，12(6)，514-517，2007.
61. 福井小紀子，田中千賀子：家族にできるケアの手引き　在宅で療養するがん患者の家族のための事前

説明ブックレット　第８回　医療処置法①　投薬（薬の服用と管理）．訪問看護と介護，12(5)，416-421，2007.
62. 福井小紀子，田中千賀子：家族にできるケアの手引き　在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第７回　症状へのケア法④　不眠・不眠感，不安・抑うつ，せん妄．訪問看護と介護，12(4)，324-329，2007.
63. 福井小紀子，田中千賀子：家族にできるケアの手引き　在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第６回　症状へのケア法③　呼吸困難，痰・咳，発熱，かゆみ，出血．訪問看護と介護，12(3)，236-241，2007.
64. 福井小紀子，田中千賀子：家族にできるケアの手引き　在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第５回　症状へのケア法②　吐き気，におい，浮腫，腹部膨満感，全身倦怠感．訪問看護と介護，12(2)，130-135，2007.
65. 福井小紀子，田中千賀子：家族にできるケアの手引き　在宅で療養するがん患者の家族のための事前説明ブックレット　第４回　症状へのケア法①　痛み．訪問看護と介護，12(1)，62-68，2007.
66. 松浦志野，石垣和子，辻村真由子，植田彩，岡本有子，園田芳美，望月由紀，吉永亜子，高橋久一郎：看護実践における身体性を考える．千葉看会誌，13(1)，128-133，2007.
67. 石垣和子：文化に根ざした看護学の発見．千葉大学21世紀COEプログラム，第４回国際シンポジウム抄録，16-19，2007.
68. 石垣和子：質的研究のメタ統合．千葉大学21世紀COEプログラム，第４回国際シンポジウム抄録，48-49，2007.
69. Kazuko Ishigaki: Gerontological and Community Health Nursing in Japan, Building Excellence in Nursing through networking and Innovation. Chengdu International Nursing Conference, 60-61, 2007.

〔研究状況〕

３月に山本助教授，片倉助手が転出し，４月より福井准教授が，５月より伊藤助教が転入した．

１）COE研究：石垣は前年度に引き続き21世紀COEプログラムの拠点リーダーとして全体の統括を行うと同時に，Ｃ地域健康支援及びＤ身体機能調整サブプロジェクトにおける個別研究と統括を行っている．Ｃ地域健康支援研究には，山本，片倉，及び４月からは福井及び伊藤，さらに大学院博士後期課程学生が参加し，英国，米国，スウェーデン，タイ，韓国の看護職と日本の看護職の行動ルールを比較する研究に向けて調査票の作成・配布・集計を行い，海外の研究協力者との研究会にて考察を深めた．Ｄ身体機能調整では，大学院修士学生の参加や他専門領域の教員をまじえて身体性概念を明確にし，また，排便ケアに関するメタ統合研究を完成させた．

２）文部科学研究費：平成16年度ないしは17年度から継続してきた「老人訪問看護の質評価指標の開発：ベストプラクティスに基づく評価項目策定及び標準化（基盤研究Ｂ　研究代表者：石垣和子」及び「痴呆高齢者家族の効果的な社会資源の活用を実現する支援方法開発のための質的研究（基盤研究Ｃ　研究代表者：山本則子)」を完成させた．新たに今年度より「末期がん患者・家族への在宅緩和ケア推進のための継続看護支援法の開発と有効性の検討（若手研究Ａ　研究代表者：福井小紀子)」,「ケアマネジャーの専門的行為の抑制をもたらすモラルディストレスを構成する要素の検討（スタートアップ　研究代表者：伊藤隆子)」が開始された．

３）その他の研究費：石垣，伊藤が，平成19年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）による「高齢者の胃ろう閉鎖，膀胱留置カテーテル抜去を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・ケアプログラムの開発に関する調査研究事業（日本老年看護学会が受託)」を受けて調査班長，副班長として全国の病院，施設調査を行っている．福井が，厚生労働科学研究費補助金「在宅療養者の看取りにおける訪問看護師と医師との連携に関する研究」の分担研究者として研究に取り組んでいる．

保健学教育研究分野

〔原　著〕

1．山本武志，井川梨恵，仮屋崎真由美，黒澤奈都子，橘則子，初村暢子，原田香菜，松尾由記，赤木京子：大学生のグループワークの負担感に関する調査研究−看護学科と他学科の比較から−．看護教育，8，250−256，2007．
2．山本武志，橋本廸生：患者が医療事故を認識・体験するプロセスの実態把握に関する研究−福岡県内での質問紙調査から−．病院管理，44，39−48，2007．
3．Fujimura K., Yoshida T., Yamamoto T., Yamazaki Y.: Prevalence of domestic violence against women and its risk factors in Gunma, Japan. 民族衛生，73，225−241，2007.

〔学会発表抄録〕

4．井川梨恵，山本武志：ICUにおける看護師の役割に関する考察．病院管理，44（suppl.），158，2007．
5．板垣貴志，山本武志，橋本廸生：患者によって体験・判断される医療事故の様相（第１報）患者・家族の事故への対応・対処．医療の質・安全学会誌，2（suppl.），185，2007．
6．南島多麻美，今井博久，福田吉治，中尾裕之，八幡裕一郎，石谷誓子，北池正：ベトナム農村地区における愛育班活動の現状．日公衛会雑誌，54(10)，663−664，2007．
7．三根有紀子，山本武志，佐藤香代：産科，NICU看護職員の「母乳育児を成功させるための10ヵ条」に対する認識とケアの実際．母性衛生，48(3)，123，2007．
8．劉新彦，北池正：中学生の適正体重を維持する生活習慣に関する研究．学校保健研究，49（suppl.），286，2007．
9．劉新彦，北池正：中学生の自己効力感と適正体重を維持する生活習慣との関連．日公衛会雑誌，54(10)，471，2007．
10．山本武志，田渕康子，三根有紀子，赤木京子：患者・家族（Lay Person）が医療事故を認知するプロセスの検討−医療事故体験の聞き取り調査から−．：第80回日本社会学会大会報告要旨集，191，2007．
11．山本武志，板垣貴志，橋本廸生：患者が医療事故を認知するプロセスと関連する要因の検討．病院管理，44（suppl.），252，2007．
12．山本武志，板垣貴志，橋本廸生：患者によって体験・判断される医療事故の様相（第２報）自己体験後の患者の感情・事故への評価の変遷について．医療の質・安全学会誌，2（suppl.），184，2007．

〔報告書〕

13．北池正：大学病院の看護師長研修に関するアンケート調査報告．平成18年度木村看護教育振興財団助成による研究報告書（研究代表者：北池正），21−31，2007．
14．北池正，劉新彦：流山市小中学生の生活習慣調査結果報告書．流山市教育委員会，1−53，2007．

〔その他〕

15．北池正，大室律子，黒田久美子，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：副看護部長研修には何が求められているか．看護管理，17(10)，881−884，2007．
16．黒田久美子，大室律子，北池正，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：大学病院の副看護部長研修に関するインタビュー調査報告．看護管理，17(11)，990−993，2007．
17．大室律子，黒田久美子，北池正，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：実践的研修のためのプログラム開発．看護管理，17(12)，1080−1083，2007．

〔研究状況〕

保健学教育研究分野は，地域や職域の集団を対象として，健康問題を生活環境との関連で解明することを目的に研究に取り組んでいる．

北池は，小中学生を対象に積極的生活習慣が健康管理に及ぼす影響について留学生の劉と共に研究して

いる（8，9，14）．さらに附属看護実践研究指導センターの教員と共に，看護師長研修のプログラム開発(13)を行うとともに，昨年実施した大学病院の副看護部長研修プログラムの開発について(15，16，17)情報発信を行った．山本は，患者・市民の受療行動，保健行動について研究を行っているが，本年は医療事故を体験した市民への質問紙調査と聞き取り調査を実施し，研究成果の一部を報告した（3，5，10，11，12）．

ケア開発研究部

〔学会発表抄録〕

1．Tsujimura M., Akanuma T., Nemoto K., Honda A., Suzuki I., Ishigaki K. & Yamamoto-Mitani N.: A National Survey on the Quality of Home Care Nursing for Older Adults with Bowel Dysfunction in Japan. 10th East Asian Forum on Nursing Science（EAFONS）Annual Conference, 52, 2007.
2．Simizu Y., Kuroda K., Masaki H. & Uchiumi K.: Using meta-data-analysis and qualitative analysis on nursing practice, the development of the instrument to assess diabetes self-care agency. The 8 th International Interdisciplinary Conference Advances in Qualitative Methods Program, 94, 2007.
3．Abe K., Kuroda K., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for post-mastectomy breast cancer patients. First report: Effects immediately after care implementation. Global Breast Cancer Conference, 230, 2007.
4．Kuroda K., Abe K., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for post-mastectomy breast cancer patients. Second report: Effects three months after care implementation. Global Breast Cancer Conference, 231-232, 2007.
5．Nemoto K., Abe K., Kuroda K., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for elderly breast cancer patients who have undergone mastectomy. Global Breast Cancer Conference, 233-234, 2007.
6．黒田久美子，内海香子，清水安子，麻生佳愛，村角直子，森小律恵，正木治恵：糖尿病患者セルフケア能力測定ツールを活用した看護支援プログラムの開発の方向性．日本糖尿病教育・看護学会誌，11（特別号），288，2007．
7．阿部恭子，林弥生，本田彰子，馬場由美子，赤沼智子，黒田久美子：乳がん看護認定看護師に関する看護管理者の認識．第15回日本乳癌学会学術総会プログラム抄録集，239，2007．
8．阿部恭子，黒田久美子，赤沼智子：乳がん看護認定看護師の活動の成果および今後の活動推進のための組織的支援の検討．第37回日看会抄録（看護管理），21，2007．
9．田中裕二，根本清次，佐伯由香，増田敦子，美里由紀子，藤田水穂，赤沼智子，根本敬子，石垣和子：表情刺激が生体に及ぼす影響-自律神経活動および主観的感覚尺度を指標にして-．日本看護技術学会第6回学術集会講演抄録集，50，2007．
10．赤沼智子，山本則子，根本敬子，辻村真由子，本田彰子，石垣和子：高齢者訪問看護における質評価に関する指標開発と有用性の検討-日常生活に関わる運動機能の維持・向上のためのケアについて-．第11回日本在宅ケア学会，167，2007．
11．赤沼智子，藤田水穂，高橋幸子，小宮山政敏，野田勝二，根本敬子，岩崎　寛，大釜敏正，渡辺敏：緩和ケア病棟において園芸療法の実施が看護師の仕事上のストレスに与える影響．第27回日看科会学術集会講演集，165，2007．
12．片倉直子，野田勝二，小宮山政敏，大釜敏正，根本敬子，山本則子，石垣和子：精神障害者社会復帰施設の利用者への健康相談と園芸作業をとり入れたプログラムの効果と看護の役割との関連．第27回日看科会学術集会講演集，277，2007．
13．髙橋良幸，黒田久美子，谷本真理子，田所良之，北島美奈，島田広美，正木治恵：東洋医学的視点をもつ看護師の高齢者の健康の捉え方と評価方法-生活習慣病を有する1事例の事例研究から-．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，73，2007．
14．黒田久美子，北島美奈，田所良之，髙橋良幸，島田広美，谷本真理子，正木治恵：老人医療の経験を

通して得られた高齢者の健康アセスメントの特徴　第１報−老人看護専門看護師へのフォーカスグループインタビュー調査より−．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，197，2007．

15. 田所良之，髙橋良幸，黒田久美子，北島美奈，島田広美，谷本真理子，正木治恵：老人医療の経験を通して得られた高齢者の健康アセスメントの特徴　第２報−老人専門医への参加観察及びインタビュー調査より−．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，198，2007．
16. Abe K., Honda A., Kuroda K., Sato M., Akanuma T. & Sato R.: Development and promotion of an educational program for training nurses expert in breast cancer nursing. Second International Conference Japanese Society of Cancer Nursing, 56, 2007.

〔報告書〕

17. 北池正，大室律子，黒田久美子，根本敬子，榮木実枝，門川由紀江，菅原聡美，印部厚子，木村チヅ子：国公私立大学病院看護管理者講習会（文部科学省委託事業）評価と看護師長研修プログラム開発．平成18年度木村看護教育振興財団研究助成報告書（研究代表者　北池正），2007．
18. 黒田久美子：老人看護の経験を通して得られた高齢者の健康アセスメントの特徴．平成17年度〜平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「高齢者の主体的な健康を創出・支援するための老人看護専門技術の評価資料の開発」研究成果報告書（研究代表者　正木治恵），28−37，2007．
19. 根本敬子，辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，本田彰子，山本則子：慢性疼痛ケアにおける質評価指標の開発．平成16年度〜平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書（研究代表者　石垣和子），82−94，2007．
20. 石垣和子，山本則子，本田彰子，片倉直子，根本敬子：地域で生活する障害児・者の自律生活を支援する看護モデルプログラムの開発−居住型モデルの開発・実践−．厚労科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）平成18年度総括・分担研究報告書，22−33，2007．
21. 石垣和子，山本則子，片倉直子，根本敬子：地域で生活する障害児・者の自律生活を支援する看護モデルプログラムの開発−居住型モデルの開発・実践−．厚労科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）総合研究報告書，21−28，2007．
22. 鳥海房枝，加賀谷亜希子，近藤若人，鈴木千弘，高野範城，田中智子，根本敬子：特別擁護老人ホームにおける施設サービスの質確保に関する検討報告書．平成18年度厚労省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進事業分），55−107，㈱三菱総合研究所，2007．

〔単行書〕

23. 黒田久美子：第Ⅱ章２　糖尿病患者のセルフモニタリング．正木治恵（監），黒田久美子，瀬戸奈津子，清水安子(編)糖尿病看護の実践知　事例からの学びを共有するために．第１版，医学書院，101−110，2007．
24. 黒田久美子：第Ⅲ章２　セルフケアのプロセスを患者が習得するための学習支援．正木治恵（監），黒田久美子，瀬戸奈津子，清水安子（編）糖尿病看護の実践知　事例からの学びを共有するために．第１版，医学書院，157−168，2007．
25. 黒田久美子：第Ⅲ章５　患者会活動への相互協力的アプローチによる援助．正木治恵（監），黒田久美子，瀬戸奈津子，清水安子（編）糖尿病看護の実践知　事例からの学びを共有するために．第１版，医学書院，199−205，2007．
26. 根本敬子：Ⅳ　介護保健施設における認知症高齢者のリスクとリスクマネジメントの実際−全国調査の結果より．湯浅美千代（編），認知症高齢者のリスクマネジメント．150−168，すぴか書房，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

27. 小林裕子，佐瀬真粧美，永原悦子，根本敬子：大腿骨頚部骨折を受傷した高齢患者および家族の退院に対して抱える思いと看護実践との関連．第37回日看会論文集（老年看護），198−200，2007．
28. 吉本照子，岡田忍，山田重行，緒方泰子，根本敬子，河部房子，石垣和子，竹内比呂也，土屋俊，武内八重子，今田敬子，奥出麻里：日本における看護文献提供環境の改善に関する検討会．千大看紀要，29，73−74，2007．

29. 齋藤啓子，佐瀬真粧美，半田哲子，根本敬子：固定チーム受け持ち看護方式におけるリーダー看護師の看護実践での役割認識について．第37回日看会論文集（看護管理），455-457，2007.
30. 辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，根本敬子，本田彰子，石垣和子，山本則子：排便ケアに関する質指標の構築と標準化（第１報）．看護研究，40(4)，11-18，2007.
31. 辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，根本敬子，本田彰子，石垣和子，山本則子：排便ケアに関する質指標の構築と標準化（第２報）．看護研究，40(4)，19-28，2007.
32. 根本敬子，辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，本田彰子，山本則子，石垣和子：慢性疼痛ケアに関する質指標の構築と標準化．看護研究，40(4)，59-71，2007.
33. 黒田久美子，大室律子，北池正，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田恭子，木村チヅ子：国公私立大学病院の副看護部長に対する院外教育プログラム開発．第37回日看会論文集（看護管理），15-17，2007.
34. 北池正，大室律子，黒田久美子，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：大学病院副看護部長研修のプログラム開発と実践　大学病院に特化した副看護部長研修のプログラム開発に向けて　副看護部長研修には何が求められているか　大学病院の副看護部長研修に関するアンケート調査結果より．看護管理，17(10)，881-884，2007.
35. 黒田久美子，大室律子，北池正，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：大学病院の副看護部長研修に関するインタビュー調査報告．看護管理，17(11)，990-993，2007.
36. 島田広美，谷本真理子，黒田久美子，田所良之，北島美奈，高橋良幸，菅谷綾子，正木治恵：高齢者の健康の特質に関する文献検討．老年看護学，11(2)，40-47，2007.
37. 谷本真理子，黒田久美子，田所良之，北島美奈，高橋良幸，島田広美，正木治恵：看護援助を通して見出される高齢者の健康の特質と要素-慢性病の増悪により入院している高齢患者を対象に．老年看護学，12(1)，109-116，2007.
38. 黒田久美子，根本敬子，金子史子：ケアの改善・開発における臨床と大学とのコラボレーションの方法に関する研究．平成18年度看護実践研究指導センター年報，10-14，2007.
39. 黒田久美子監修：プリセプタートラブル解決事例集．HANDS-ON，2(1)，55-62，2007.
40. 黒田久美子監修：プリセプタートラブル解決事例集．HANDS-ON，2(2)，61-68，2007.
41. 阿部恭子，黒田久美子，赤沼智子，北池正：乳がんに特化した専門性の高い看護教育プログラムの展開と乳がん看護認定看護師の実践の発展に関する調査・研究．千葉大学オープン・リサーチ，32，2007.
42. 佐藤禮子，大室律子，佐藤まゆみ，根本敬子，新野由子，太田節子，門川由紀江，濱野孝子：新人看護職者の看護実践能力を育成する教育プログラム開発　大卒新人看護職者の看護実践能力を育成する教育プログラムの評価．看護管理，17(1)，90-95，2007.

〔研究状況〕

ケア開発研究部では，ケア改善・開発に関する研究を行っている．2006年度は臨床と大学のコラボレーションの観点からの基礎的研究を行い（38)，2007年度は糖尿病合併妊婦・褥婦へのケア方法・ケア連携について研究中である．またセンター事業である副看護部長研修のプログラム開発（33-35)，看護管理者講習会の評価研究（17）を行った．

黒田は，COEサブプロジェクト「日本型対人援助関係」に参加し，糖尿病患者のセルフケア能力測定ツールの開発を継続中である．患者への試行使用を行い，その結果を報告した（６）．また乳がん看護認定看護師課程の担当教員であり，認定看護師の活動状況や成果を調査，報告し（７－８，16，41)，乳房補正のケア方法の研究に取り組んだ（３－５）．さらに文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））による「高齢者の主体的な健康を創出・支援するための老人看護専門技術の評価指標の開発」(研究代表者　正木治恵)の研究分担者として，高齢者の健康アセスメントの観点から研究に取組み，成果を報告した(14，18)．さらに千葉大学看護学研究科の修士論文・博士論文の成果に基づく糖尿病看護の実践知に関する単行書の編集を担当し，執筆した（23-25)．

根本は，2005年度実施したテーマ別研究研修「高齢患者の継続看護」に関連して，高齢患者の退院支援および看護チームの継続看護について論文発表した(27，28)．また，科学研究費補助金(基盤研究Ｂ（１））

による「老人訪問看護の質評価指標の開発−ベストプラクティスに基づく評価項目の策定及び標準化」（研究代表者　石垣和子）の研究分担者として，その成果を発表，報告書ならびに論文発表した（10，19，30−32）．さらに昨年度実施した科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公開発表（A）」によるシンポジウム（研究代表者　湯浅美千代）について分担執筆した（26）．さらに，園芸療法の研究に取り組みその成果を発表した（11−12，20−21）．COEでは，D（身体機能調整）グループで表情に関する研究に取り組みその成果を発表した（９）．

政策・教育開発研究部

〔原　著〕

1．細谷紀子，大室律子，丸山美和子，布施千草：保健医療福祉政策の転換期における保健師の施策化に関する実践知−市町村保健師の経験からの考察−．千葉看会誌，13(2)，1−9，2007．

〔学会発表抄録〕

2．松本幸枝，布施千草，箕浦とき子，唐澤泉，坂田五月，大室律子：在宅認知症高齢者の急性期の入院における医療・介護の支援体制の実施−介護家族インタビューを通して−．第38回日看会抄録（地域看護），53，2007．
3．大室律子，濱野孝子：わが国の助産師教育の特徴と課題．母性衛生，48(3)，221，2007．
4．唐沢泉，大室律子：助産師教育を担当している教員の将来の助産師教育に対する考え方．母性衛生，48(3)，221，2007．
5．那須淳子，大室律子：新卒看護師の看護ケア上の多重課題に関する実態調査．第38回日看会抄録（看護管理），73，2007．
6．坂田五月，大室律子，布施千草，松本幸枝，箕浦とき子：新人看護職員の静脈注射技術の習得に影響を及ぼす要因．第38回日看会抄録（看護管理），219，2007．
7．細谷紀子，大室律子，丸山美知子，布施千草：保健医療福祉政策の転換期における市町村保健師の施策化に関する実践知　第１報−施策化の実践内容−．第27回日看科会学術集会講演集，405，2007．
8．丸山美知子，大室律子，細谷紀子，布施千草：保健医療福祉政策の転換期における市町村保健師の施策化に関する実践知　第２報−施策化の実践による変化−．第27回日看科会学術集会講演集，406，2007．
9．Abe K., Honda A., Kuroda K., Sato M., Akanuma T. & Sato R.: Development and promotion of an education program for training nurses expert in breast cancer nursing. Second International Conference Japanese Society of Cancer Nursing, 56, 2007.
10．正野逸子，土平俊子，平山香代子，本田彰子，上野まり，菊池和子，炭谷靖子，栗本一美，赤沼智子：OJT計画書を活用した訪問看護人材育成学習支援プログラム（その１）−実践内容評価項目の前後の評価から捉える実施効果−．第11回日本在宅ケア学会，89，2007．
11．栗本一美，本田彰子，平山香代子，正野逸子，土平俊子，上野まり，菊池和子，炭谷靖子，赤沼智子：OJT計画書を活用した訪問看護人材育成学習支援プログラム（その２）−個別計画立案における学習目標および学習方策の特徴−．第11回日本在宅ケア学会，90，2007．
12．炭谷靖子，栗本一美，本田彰子，平山香代子，菊池和子，土平俊子，正野逸子，上野まり，赤沼智子：OJT計画書を活用した訪問看護人材育成学習支援プログラム（その３）−個人評価の理由から見たプログラム実施課程の評価−．第11回日本在宅ケア学会，91，2007．
13．赤沼智子，山本則子，根本敬子，辻村真由子，本田彰子，石垣和子：高齢者訪問看護における質評価に関する指標開発と有用性の検討−日常生活に関わる運動機能の維持・向上のためのケアについて−．第11回日本在宅ケア学会，167，2007．
14．阿部恭子，林弥生，本田彰子，馬場由美子，赤沼智子，黒田久美子：乳がん看護認定看護師に関する看護管理者の認識．第15回日本乳癌学会，239，2007．
15．杉内喜世子，赤沼智子：脳死状態となった患者の家族看護に対する看護師の意識．第38回日看会抄録

（看護総合），18，2007．

16．阿部恭子，黒田久美子，赤沼智子：乳がん看護認定看護師の活動の成果および今後の活動推進のための組織的支援の検討．第38回日看会抄録（看護管理），21，2007．

17．石井一枝，赤沼智子，本田彰子：ベテランナースが捉えている教育的役割とその実践に関連している要因の分析．第38回日看会抄録（看護管理），5，2007．

18．松本明子，赤沼智子：中堅看護師のキャリア発達に対する意識変容を促す看護管理者の有効な働きかけ．第38回日看会抄録（看護管理），6，2007．

19．緒方泰子，永野みどり，赤沼智子，橋本廸生，野中時代，大上道子：看護実践環境の測定（第１報）：Practice Environment Scale of the Nursing Work Index日本語版の検討．病院管理，44（Suppl），222，2007．

20．永野みどり，緒方泰子，赤沼智子，橋本廸生：看護実践環境の測定（第２報）：PES-NWI日本語版と就業継続意思との関連．病院管理，44（Suppl），223，2007．

21．Abe K., Kuroda k., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for post-mastectomy breast cancer patients. Fist report: Effects immediately after care implementation. Global Breast Cancer Conference, 230, 2007.

22．Kuroda K., Abe K., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for post-mastectomy breast cancer patients. Second report: Effects Three Months after care Implementation. Global Breast Cancer Conference, 231-232, 2007.

23．Nemoto K., Abe K., Kuroda K., Akanuma T., Baba Y. & Sato M.: Care using breast prostheses for elderly breast cancer patients who have undergone mastectomy. Global Breast Cancer Conference, 233-234, 2007.

24．赤沼智子，藤田水穂，高橋幸子，小宮山政敏，野田勝二，根本敬子，大釜敏正，渡辺敏，岩崎寛：緩和ケア病棟においての園芸療法の実施が看護師の仕事上のストレスに与える影響．第27回日看科会学術集会講演集，165，2007．

25．田中裕二，根本清次，佐伯由香，増田敦子，美里由紀子，藤田水穂，赤沼智子，根本敬子，石垣和子：表情刺激が生体に及ぼす影響-自律神経活動および主観的感覚尺度を指標にして-．日本看護技術学会第６回学術集会講演抄録集，50，2007．

〔報告書〕

26．北池正，大室律子，黒田久美子，根本敬子，榮木実枝，門川由紀江，菅原聡美，印部厚子，木村チヅ子，吉川淳子：国公私立大学病院看護管理者講習会（文部科学省委嘱事業）評価と看護師長研修プログラム開発．平成18年度財団法人木村看護教育振興財団助成による研究成果報告書，1-105，2007．

27．舟島なをみ，杉森みど里，野本百合子，大室律子，野口美和子，佐藤禮子，太田節子，亀岡智美，松田安弘，三浦弘恵，中山登志子，横山京子，永野光子：看護継続教育支援システムの開発．平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）），1-65，2007．

28．赤沼智子：高齢者訪問看護における日常生活に関わる運動機能の維持・向上のためのケアの質評価指標開発．（研究代表者　石垣和子）老人訪問看護の質評価指標の開発：ベストプラクティスに基づく評価項目策定及び標準化．平成16年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ））研究成果報告書，146-148，234-237，2007．

29．本田彰子，清水洋子，佐野けさ美，赤沼智子，杉田美和子，上野まり，安井千明，炭谷靖子，尾田優美子，酒井昌子，大場康子，正野逸子：訪問看護ステーションを活用したコミュニティー形成のための地域住民の介護力向上・支援の取り組み事業．平成18年度独立行政法人福祉医療機構助成金事業報告書，10-24，2007．

〔単行書〕

30．赤沼智子：Ⅱ－２－２－４）在宅ケアシステム．木下由美子（編），Essentials在宅看護学．第１版，医歯薬出版株式会社，90-104，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

31. 黒田久美子，大室律子，北池正，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：国公私立大学病院の副看護部長に対する院外教育プログラム開発．第37回日看会論文（看護管理），15-17，2007.
32. 村瀬妙子，大室律子：Ａ大学病院において共通床を有する病棟看護師の看護過程展開の現状と課題．第37回日看会論文（看護管理），23-25，2007.
33. 禿小恵子，大室律子：大都市のＡ大学病院に勤務する20歳代看護師の就職・離職に関する実態調査．第37回日看会論文（看護管理），421-423，2007.
34. 大釜敏正，野田勝二，桜庭俊，北条雅章，小宮山政敏，上田義弘，赤沼智子，寺内文雄，池上文雄：園芸療法用木製レイズドベッドのエルゴデザイン：高齢者の作業しやすい高さと奥行き．木材学会誌，53(3)，149-156，2007.
35. 辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，根本敬子，本田彰子，石垣和子，山本則子：排便ケアに関する質指標と標準化（第１報）質指標作成のプロセス．看護研究，40(4)，11-18，2007.
36. 辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，根本敬子，本田彰子，石垣和子，山本則子：排便ケアに関する質指標と標準化（第２報）全国の訪問看護師を対象とした実態調査による実践への適用可能性の検討．看護研究，40(4)，19-28，2007.
37. 根本敬子，辻村真由子，鈴木育子，赤沼智子，本田彰子，山本則子，石垣和子：慢性疼痛ケアに関する質指標の構築と標準化．看護研究，40(4)，59-71，2007.
38. 佐藤禮子，大室律子，佐藤まゆみ，根本敬子，新野由子，太田節子，門川由紀江，濱野孝子：大卒新人看護職者の看護実践能力を育成する教育プログラムの評価．看護管理，17(11)，90-95，2007.
39. 大室律子：病院のしくみと成り立ち．クリニカルスタディ，28(4)，10-11，2007.
40. 大室律子：大学病院に特化した副看護部長研修のプログラム開発に向けて．看護管理，17(10)，878-880，2007.
41. 北池正，大室律子，黒田久美子，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：副看護部長研修には何が求められているか−大学病院の副看護部長研修に関するアンケート調査結果−．看護管理，17(10)，881-884，2007.
42. 黒田久美子，大室律子，北池正，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：大学病院の副看護部長研修に関するインタビュー調査報告．看護管理，17(11)，990-993，2007.
43. 大室律子，黒田久美子，北池正，平山妙子，濱野孝子，門川由紀江，岡田共子，木村チヅ子：実践的研修のためのプログラム開発．看護管理，17(12)，1080-1083，2007.
44. 大室律子：「看護実践における大卒看護師の貢献と課題」．日本看護系大学協議会　広報・出版委員会主催シンポジウム，1-3，2007.
45. 杉内喜世子，赤沼智子：死状態となった患者の家族看護に対する看護師の意識．第38回日看会論文集（看護総合），23-25，2007.

〔研究状況〕

政策・教育開発研究部は19年度から看護管理研究部と継続看護研究部を発展的に統合し発足した．平成18年度に看護管理研究部寄付金を受け「国公私立大学病院看護管理者講習会（文部科学省委嘱事業）評価と看護師長研修プログラム開発」の研究報告書をまとめた（26）．また，前年度の看護管理研究部寄付金の「国公私立大学病院副看護部長の看護管理者研修に関わる実践的プログラム開発」の研究成果をまとめた（31）．さらにその成果発表をした（40-43）．

「プロジェクト研究」では，在宅認知症高齢者の医療・介護の支援体制の実施（２），助産師教育を担当している教員の助産師教育に対する考え方（４），新人看護職員の静脈注射の習得に関する研究（６）の学会発表を行った．

「テーマ別研究研修」は，共通床を有する病棟看護師の看護過程展開の現状と課題（32），20歳代看護師の就職に関する成果をまとめた（33）．さらに新卒看護師の看護ケア上の多重課題に関する実態調査を発表した（５）．

COE研究では，Ｃの地域健康支援において保健医療福祉政策の転換期における市町村保健師の施策化

に関する実践知を発表した（1，7，8）．またわが国の助産師教育の特徴と課題について発表した（3）．

赤沼は，今年度主に4つの領域における研究活動を行った．①訪問看護に関することは実践の質を向上させ，訪問看護ステーションの管理を適切にすることをめざした内容であった（10-13，28，29，35-37）．②看護管理・人材育成・職場内学習支援に関することは，病院からの依頼の研究指導という継続教育の実践を含めて，臨床で働く看護師，特に中堅看護師の向上心を明確にする成果があった（15，17-20）．③園芸療法に関することは，緒に就いたばかりの活動ではあるが，園芸活動がケアに有効であることが少しずつ明確になってきている（24，34）．④乳がん看護認定看護師教育に関することは，着実に成果を上げることができた（9，14，16，21-23）．

認定看護師教育課程（乳がん看護）

〔学会発表抄録〕

1．阿部恭子，林弥生，本田彰子，馬場由美子，赤沼智子，黒田久美子：乳がん看護認定看護師に関する看護管理者の認識，第15回日本乳癌学会学術総会抄録集，239，2007．

2．阿部恭子，黒田久美子，赤沼智子：乳がん看護認定看護師の活動の成果および今後の活動推進のための組織的支援の検討，第38回日看会抄録（看護管理），21，2007．

3．金澤麻衣子，阿部恭子：乳房術後患者への乳房の補整に関する援助の現状，第4回日本乳がん看護研究会抄録集，22，2007．

4．Abe K., Honda A., Kuroda K., Sato M., Akanuma T., Sato R.,: Development and promotion of an educational program for training nurses expert in breast cancer nursing, Second International Conference Japanese Society of Cancer Nursing, 56, 2007.

5．Abe K., Kuroda K., Akanuma T., Baba Y., Sato M.: Care using breast prostheses for post–mastectomy breast cancer patients. First report: Effects immediately after care implementation, Global Breast Cancer Conference, 230, 2007.

6．Kuroda K., Abe K., Akanuma T., Baba Y., Sato M.: Care using breast prostheses for post–mastectomy breast cancer patients. Second report: Effects three months after care implementation, Global Breast Cancer Conference, 231-232, 2007.

7．Nemoto K., Abe K., Kuroda K., Akanuma T., Baba Y., Sato M.: Care using breast prostheses for elderly breast cancer patients who have undergone mastectomy, Global Breast Cancer Conference, 233-234, 2007.

〔単行書〕

8．阿部恭子：第Ⅰ部6セクシュアリティ．Joanne K. Itano, Karen N. Taoka（小島操子，佐藤禮子監訳，日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員訳），がん看護コアカリキュラム．医学書院，76-81，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

9．正木治恵，眞嶋朋子，吉本照子，阿部恭子，北池正，田中裕二，野本百合子，大月恵理子：平成18年度千葉大学公開講座「看護におけるキャリア開発の方向と成果」，千大看紀要，29，55-59，2007．

10．阿部恭子：認定看護分野のトゥデイズ・ケア，乳がん看護のトピック，乳房温存術後の補整：ナーシング・トゥデイ，22(3)，8，2007．

11．阿部恭子：認定看護分野のトゥデイズ・ケア，乳がん看護のトピック，乳がん患者のセルフケアを促す退院指導のポイント：ナーシング・トゥデイ，22(13)，5-7，2007．

12．阿部恭子：乳腺疾患の基礎知識と外来看護師の役割，第1回乳腺疾患看護の基礎知識，外来看護最前線，13(1)，131-135，2007．

13．阿部恭子，黒田久美子，赤沼智子，北池正：乳がんに特化した専門性の高い看護教育プログラムの展開と乳がん看護認定看護師の実践の発展に関する調査・研究，千葉大学オープン・リサーチ，32，

2007.
14. 阿部恭子：乳がん看護認定看護師-検査・診断過程における看護師の役割，臨床検査，51(1)，91-93，2007.
15. 阿部恭子：英国の乳癌検診システムとナースの役割，日本乳癌検診学会誌，16(3)，361，2007.
16. 田中香，阿部恭子：乳がん看護の理想のかたち-英国にブレストケアナースを訪ねて-，看護学雑誌，71(4)，350-353，2007.

〔研究状況〕

乳がん看護認定看護師教育課程では，乳がん看護および乳がん看護認定看護師教育に関する教育実践および研究を行っている．乳がん看護の実践的な教育に関するもの（10-12）と，乳がん看護認定看護師の役割に関するもの（1，9，14-16），乳がん看護認定看護師教育プログラムに関するもの（4，13）がある．また，乳がん看護認定看護師の活動の拡大と定着に向けた調査研究（2）や，乳がん患者への実践的なケアに関する調査研究（3，5－7）について報告した．

病院看護システム管理学

〔原　著〕

1．緋田雅美，手島恵，中井章人：急性期病院入院患者における転倒リスクの再評価．病院管理，44(4)，337-343，2007.

〔学会発表抄録〕

2．濱口恵子，鈴木久美，石垣靖子，手島恵，小島操子：わが国の外来科学療法に関するケアシステムの現状．日本がん看護学会誌，21（Suppl），176，2007.
3．Suzuki K., Ishigaki Y., Hamaguchi K., Teshima M., Kojima M.: A survey of current ambulatory cancer chemotherapy in Japan, 2nd International Conference Japanese Society of Cancer Nursing, 60, 2007.
4．緋田雅美，手島恵，永野みどり：転倒予防システムの再構築．第11回日本看護管理学会年次大会抄録集，84，2007.
5．佐野美香，手島恵，永野みどり：小児専門病院における新人看護師の継続体制の評価とその活用，第11回日本看護管理学会年次大会抄録集，147，2007.
6．伊藤直美，宇野光子，石黒めぐみ，加藤俊介，田中真琴，徳永惠子，永野みどり，上原健一，名川弘一，数間恵子：消化器系ストーマ造設患者の健康関連QOLの推移（経過報告）．日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌，23(1)，73，2007.
7．永野みどり，緒方泰子，赤沼智子，橋本廸生：看護実践環境の測定（第２報）　PES-NWI日本語版と就業継続意思との関連．病院管理，44（Suppl），223，2007.
8．緒方泰子，永野みどり，赤沼智子，橋本廸生，野中時代，大上道子：看護実践環境の測定（第１報）Practice Environment Scale of the Nursing Work Index日本語版の検討．病院管理，44（Suppl），44，222，2007.
9．江幡智栄，永野みどり，黒田豊子，平木久美子，緒方泰子，遠藤貴子，徳永恵子，葛西好美，石田陽子，手島恵，櫻井智穂子：特別養護老人ホームにおける褥瘡予防器具としての円座の使用状況．日本褥瘡学会誌，9(3)，383，2007.
10. 黒田豊子，永野みどり，徳永惠子，江幡智栄，平木久美子，遠藤貴子，緒方泰子，葛西好美，石田陽子，手島恵，櫻井智穂子：特別養護老人ホームにおける褥瘡対策体制．日本褥瘡学会誌，9(3)，452，2007.
11. 永野みどり，徳永恵子，黒田豊子，平木久美子，遠藤貴子，江幡智栄，葛西好美，石田陽子，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子：特別養護老人ホームにおける褥瘡の保有者．日本褥瘡学会誌，9(3)，453，2007.

〔報告書〕

12. 手島恵，石井トク，小山眞理子，野末聖香，櫻井智穂子：看護研究における倫理審査体制の支援システム開発(研究代表者　手島恵)．平成17年度～18年度科学研究補助金基盤(C)研究成果報告書，2007.
13. 永野みどり：高齢者施設における褥瘡ケアガイドラインの作成．厚労科学研究費補助金，(長寿科学総合研究事業）平成18年度総合研究報告書，2007.

〔単行書〕

14. 手島恵：人生の意味を支えるケア．柳田邦男，静慈円（編）生と死の21世紀宣言．青海社，257-273，2007.
15. 鶴田恵子，佐藤昭枝，鈴木恵子，手島恵　他４名：2006年改訂看護業務基準．日本看護協会出版会，1-28，2007.
16. 永野みどり，徳永恵子，大浦武彦，木之瀬隆，杉山みちこ，小川裕美，田中涼子，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子：高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン，褥瘡リスクのアセスメントとケア計画の立案．高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン作成委員会（編），高齢者介護施設の褥瘡ケアガイドライン．中央法規，25-38，2007.
17. 永野みどり，江幡智栄，黒田豊子：褥瘡リスクのアセスメントとケア計画の立案．高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン作成委員会（編），高齢者介護施設の褥瘡ケアガイドライン．中央法規，58-69，2007.
18. 永野みどり，葛西好美：その人らしさを尊重した生活調整・支援．高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン作成委員会（編），高齢者介護施設の褥瘡ケアガイドライン．中央法規，154-167，2007.
19. 永野みどり：褥瘡対策におけるリーダーシップ，褥瘡対策に関するスタッフの人材開発，褥瘡対策に関する情報管理，高齢者施設における褥瘡ケアガイドラインの作成に関する研究．高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン作成委員会（編），高齢者介護施設の褥瘡ケアガイドライン．中央法規，168-169，176-179，180-181，188-203，2007.
20. 永野みどり，山田尚子：褥瘡予防対策に必要な環境の整備．高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン作成委員会（編），高齢者介護施設の褥瘡ケアガイドライン．中央法規，170-175，2007.
21. 緒方泰子，永野みどり：高齢者介護施設における褥瘡対策体制の自己評価，高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン作成委員会（編），高齢者介護施設の褥瘡ケアガイドライン．中央法規，182-185，2007.

〔研究状況〕

平成19年４月から病院看護システム管理学では，教授　手島恵，准教授　永野みどりの２名により教育・研究が行われている．

平成18年度に選定された大学教育改革補助金特色GP「課題プロジェクトによる看護管理能力の開発の取り組み」の一環で，３月に第１回ワークショップ「経営に貢献する看護」を開催し学内外から54名の参加者を得た．８月に大学院生７名を引率してProvidence　Hospital（ワシントンDC）でインターンシップを実施した．また，e-Leaningのシステムを活用して情報共有や課題管理，遠隔地でプロジェクトに取組む院生の学習支援が実施できるようになった．

手島は，平成17年度から開始した科学研究費補助金基盤（C）看護研究における倫理審査体制の支援システム開発を報告書としてまとめた（12)．平成17年度から日本看護協会看護業務委員会委員をつとめ改訂作業にたずさわった2006年改訂日本看護協会業務基準が公表され出版された（15)．平成17年度から委員をつとめた日本がん看護学会学術的根拠に基づいた看護の診療報酬体系の在り方検討会議の成果を報告した（２-３)．

永野は，平成18年度の厚生労働科学研究費補助金，長寿科学総合研究事業，「高齢者施設における褥瘡ケアガイドラインの作成」の研究を報告書（13）としてまとめ，学会で発表し（９-11）体系的に著書としてまとめた（16-21)．

地域看護システム管理学

〔原　著〕

1．田髙悦子，川越博美，宮本有紀，緒方泰子，門田直美：認知症ケア専門特化型訪問看護ステーションにおけるサービスの質の評価基準の開発．老年看護学，11(2)，64-73，2007．

〔学会発表抄録〕

2．柳澤尚代，吉本照子：精神保健分野における住民からの苦情・相談や情報提供に対する判断と支援．第66回日公衛学会総会抄録集，549-550，2007．

3．Yanagisawa H. & Yoshimoto T.: Characteristics of support to local residents' claims grasped by mental-health officers. The 1st Korea & Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 185-186, 2007.

4．清水みどり，吉本照子，杉田由加里：都市部の介護老人保健施設における看護職・相談職の在宅支援に関するケアと連携．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，134，2007．

5．諏訪さゆり，湯浅美千代，酒井郁子，吉本照子：肺炎に罹患した認知症高齢者の生活機能の変化と介護との関連．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，69，2007．

6．諏訪さゆり，湯浅美千代，酒井郁子，吉本照子：大腿骨頸部骨折を受傷した認知症高齢者の生活機能の変化と介護との関連．日本認知症ケア学会誌，6(2)，269，2007．

7．緒方泰子，永野みどり，赤沼智子，橋本廸生，野中時代，大上道子：看護実践環境の測定(第１報)：Practice Environment Scale of the Nursing Work Index日本語版の検討．病院管理，44（suppl.)，222，2007．

8．永野みどり，緒方泰子，赤沼智子，橋本廸生：看護実践環境の測定（第２報)：PES-NWI日本語版と就業継続意思との関連．病院管理，44（suppl.)，223，2007．

9．Ogata Y., Fukuda T., Yoshida C., Hashimoto M., Otosaka K., & Nitta A.: A Study on the Workplace Preference by Visiting Nurses–An Applicaion of Conjoint Analysis–. The 6th World Congress of international Health Economics Association (iHEA), 15, 2007.

10．江幡智栄，永野みどり，黒田豊子，平木久美子，緒方泰子，遠藤貴子，徳永恵子，葛西好美，石田陽子，手島恵，櫻井智穂子：特別養護老人ホームにおける褥瘡予防器具としての円座の使用状況．日本褥瘡学会誌，9(3)，383，2007．

11．黒田豊子，永野みどり，徳永恵子，江幡智栄，平木久美子，遠藤貴子，緒方泰子，葛西好美，石田陽子，手島恵，櫻井智穂子：特別養護老人ホームにおける褥瘡対策体制．日本褥瘡学会誌，9(3)，452，2007．

12．永野みどり，徳永恵子，黒田豊子，平木久美子，遠藤貴子，江幡智栄，葛西好美，石田陽子，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子：特別養護老人ホームにおける褥瘡の保有者．日本褥瘡学会誌，9(3)，453，2007．

13．門田直美，田髙悦子，宮本有紀，緒方泰子，馬場先淳子：BPSDから見た認知症専門ケア訪問看護の利用者特性～認知症ケア専門特化型訪問看護ステーション調査より～．第11回日本在宅ケア学会学術集会講演集，129，2007．

〔報告書〕

14．吉本照子，酒井郁子，湯浅美千代，諏訪さゆり：医療依存度の高い認知症高齢者のケアにおける介護保険事業所と医療機関との連携に関する研究-介護施設を利用する認知症高齢者の医療ニーズの実態-．（研究責任者　諏訪さゆり）平成18年度老人保健事業増進等事業　認知症高齢者の自立と尊厳を保持した生活支援のための方策に関する研究報告書，社会福祉法人浴風会　認知症介護研究・研修東京センター，61-132，2007．

15．田髙悦子，緒方泰子，門田直美，宮本有紀，宮崎和加子：訪問看護ステーションに係わる介護保険サービスにおける看護提供体制のあり方に関する研究-訪問看護ステーションの業務基準に関する検討-；認知症ケア（主任研究者：川村佐和子)，平成18年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金事

業報告書，社団法人全国訪問看護事業協会，83-93，2007.

〔単行書〕

16. 吉本照子：序文，第１章協働的パートナーシップの基盤，第２章協働的パートナーシップの基本要素，第３章協働的パートナーシップ螺旋モデル，用語解説．Gottlieb LN., Feeley N., Dalton C.（吉本照子，酒井郁子，杉田由加里訳）：協働的パートナーシップによるケア　援助関係におけるバランス．エルゼビアジャパン，7-11，20-80，198-203，2007.
17. 緒方泰子：第２章 高齢者介護施設における褥瘡予防ケア提供の仕組み作り　５．高齢者介護施設における褥瘡対策体制の自己評価．高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン作成委員会（編），高齢者介護施設の褥瘡ケアガイドライン．中央法規，182-185，2007.
18. 永野みどり，徳永恵子，大浦武彦，木之瀬隆，杉山みちこ，小川裕美，田中涼子，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子：高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン，褥瘡リスクのアセスメントとケア計画の立案．高齢者施設における褥瘡ケアガイドライン作成委員会（編），高齢者介護施設の褥瘡ケアガイドライン．中央法規，25-38，2007.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

19. 吉永亜子，吉本照子：足浴が頭痛を緩和する看護技術から睡眠をうながす技術へと進展した背景要因．日本看護技術学会誌，6(1)，70-77，2007.
20. 茂野香おる，井上映子，八島妙子，渡邊智子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子：介護老人保健施設入居者の生活リズム調整に関する看護師のアセスメント視点．千葉県立衛生短期大学紀要，25(2)，61-68，2007.
21. 井上映子，茂野香おる，八島妙子，渡邊智子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子：介護老人保健施設ケアスタッフの生活リズム調整ケアの基盤となっている価値観．千葉県立衛生短期大学紀要，26(1)，97-104，2007.
22. 正木治恵，眞嶋朋子，吉本照子，阿部恭子，北池正，田中裕二，野本百合子，大月恵理子：平成18年度千葉大学公開講座「看護におけるキャリア開発の方向と成果」．千大看紀要，29，55-59，2007.
23. 吉本照子，岡田忍，山田重行，緒方泰子，根本敬子，河部房子，石垣和子，竹内比呂也，土屋俊，武内八重子，今田敬子，奥出麻里：日本における看護文献提供環境の改善に関する検討会．千大看紀要，29，73-74，2007.
24. 吉本照子，酒井郁子，杉田由加里，井上映子，八島妙子，渡邊智子，茂野香おる：老健の在宅生活支援における医療・福祉職者のジレンマ．第18回全国介護老人保健施設愛知大会，201，2007.
25. 遠藤淑美，吉本照子，杉田由加里，坂田三允，酒井郁子：悪性腫瘍を合併した統合失調症患者の看護援助に関する研究．精神科看護，34(2)，42-48，2007.
26. 茂野香おる，八島妙子，酒井郁子，吉本照子：介護老人保健施設の医療的管理における看護職と介護職の役割分担と機能の実態，千葉県立衛生短期大学紀要，26(1)，121-128，2007.
27. 緒方泰子，福田敬，橋本廸生，吉田千鶴，新田淳子，乙坂佳代：看護師の就業場所の選好に関する研究-訪問看護ステーション看護師を対象としたコンジョイント分析の応用-．医療経済研究機構レター，150，40-43，2007.

〔研究状況〕

平成19年度から新体制「地域看護システム管理学」として研究教育活動を開始した．多様なケアの場の看護管理者が自施設の価値観とは異なった価値観，他施設・機関の役割と貢献を理解して，地域の状況に即したケアのシステム化を推進できるように，地域ケアのシステム化の考え方，方法及び評価について，高齢者の在宅生活支援システムの開発方法と評価，ケアの質評価，看護実践環境とアウトカムの関連等の研究を進めている．また，訪問看護学教育研究分野と協力して，平成19年度文部科学省委託事業「訪問看護師として再就職したい看護職者を支援する学び直しプログラム開発」に取り組んだ．

吉本は，精神障害をもつ人々（２，３）や高齢者（４，20，24）の地域生活支援について報告し，ケアのシステム化のキー概念として「パートナーシップ」の翻訳（16）を行った．

緒方は，マグネット病院の特性を反映したPES-NWI日本語版の信頼性と妥当性の検討（７，８），看護師の就業先選好（９，27），認知症ケア専門特化型訪問看護ステーションにおけるサービスの質評価基準の開発（１，13，15），高齢者施設における褥瘡対策（10-12）や褥瘡ケアガイドラインの作成（17，18）に関する調査研究を行った．

ケア施設看護システム管理学

〔原　著〕

１．遠藤淑美，吉本照子，杉田由加里，坂田三允，酒井郁子：悪性腫瘍を合併した統合失調症者の看護援助に関する研究．精神科看護，34(2)，42-48，2007．

２．佐藤弘美，天津栄子，金川克子，田髙悦子，酒井郁子，細川淳子，伊藤麻美子，松平裕佳，本尾サチ：回想法で用いるプロンプトが認知症高齢者に及ぼす影響．石川看護雑誌，4，39-46，2007．

〔学会発表〕

３．湯浅美千代，酒井郁子：病棟看護師を対象とした教育プログラム作成の課題．日本看護学教育学会第17回学術集会講演集，258，2007．

４．諏訪さゆり，湯浅美千代，酒井郁子，吉本照子：大腿骨頸部骨折を受傷した認知症高齢者の生活機能の変化と介護の関連．日本認知症ケア学会誌，6(2)，269，2007．

５．山本雅子，酒井郁子，湯浅美千代，末永由理，遠藤淑美，島田広美，染谷さち代：回復期リハビリテーション病棟に入院中の脳卒中患者のQOLの推移　第１報．第38回日看会抄録（老年看護），179，2007．

６．Sakai I., Yuasa M., Suenaga Y., Endo Y. & Shimada H.: The study of clinical application and effectiveness of the nursing theory which promotes stroke survivors' self development. West China International Nursing Conference, 97-98, 2007.

７．諏訪さゆり，湯浅美千代，酒井郁子，吉本照子：肺炎に罹患した認知症高齢者の生活機能の変化と介護の関連．日本老年看護学会誌，6(2)，269，2007．

８．酒井郁子，湯浅美千代，末永由理，遠藤淑美，島田広美，山本雅子，染谷さち代：高齢脳卒中患者の自我発達を促進する看護理論に基づいた学習プログラムの開発と評価-回復期リハビリテーション病棟看護師への介入と効果-．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，106，2007．

９．田髙悦子，金川克子，佐藤弘美，天津栄子，酒井郁子，伊藤麻美子，松平裕佳，前田充代：認知機能に着目した新たな介護予防ハイリスクアプローチプログラムのモデル開発．日本老年看護学会第12回学術集会抄録集，114，2007．

10．田髙悦子，金川克子，酒井郁子，佐藤弘美，天津栄子，松平裕佳，田中奈津子，国井由生子，前田充代：介護予防ハイリスクアプローチとしてのマインドマップ法を用いた健康教育，第14回日本未病システム学会学術総会抄録集，96，2007．

11．金川克子，田髙悦子，佐藤弘美，天津栄子，酒井郁子，松平裕佳，田中奈津子，国井由生子，前田充代：認知機能に着目した介護予防ハイリスクアプローチ開発-第１報：軽度認知機能障害者への有効性．第27回日看科学学術集会講演集，401，2007．

12．田髙悦子，金川克子，佐藤弘美，天津栄子，酒井郁子，松平裕佳，田中奈津子，国井由生子，前田充代：認知機能に着目した介護予防ハイリスクアプローチ開発-第２報：軽度認知機能障害者の前頭葉機能への有効性．第27回日看科学学術集会講演集，402，2007．

13．酒井郁子，田髙悦子，金川克子，佐藤弘美，天津栄子，松平裕佳，田中奈津子，国井由生子，前田充代：認知機能に着目した介護予防ハイリスクアプローチ開発-第３報：日記法によるセルフリフレクションの有効性．第27回日看科学学術集会講演集，402，2007．

14．吉田千文，酒井郁子，手島恵，荻野雅：インフォメーション・エクスチェンジ「看護倫理を推進するための看護管理者の取り組み」．第11回日本看護管理学会年次大会集録，138，2007．

15．Yoshida C., Mori E., Teshima M., Sakai I., Yamamoto T., Ogino M. & Takahashi K.: Ethical issues in

nursing management: critical care in Japan. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, C745-B, 2007.

16. Ogino M., Mori E., Teshima M., Yamamoto T., Sakai I., Takahashi K. & Yoshida C: Development and evaluation of a nursing ethics educational program for graduate schools. 10th East Asian Forum of Nursing Scholars Annual Conference, 68, 2007.

〔報告書〕

17. 酒井郁子，赤沼智子，伊藤恵理子，井ノ口佳子，上野まり，曾篠久子，田中康之，山本則子：５）リハビリテーションケア　リハビリテーション専門特化型訪問看護ステーション業務基準．訪問看護ステーションに係わる介護保険サービスにおける看護提供体制のあり方に関する研究（委員長　川村佐和子），訪問看護ステーションの業務基準に関する検討平成18年度報告書，120-148，2007.
18. 諏訪さゆり，酒井郁子，吉本照子，湯浅美千代：医療依存度の高い認知症高齢者のケアにおける介護保険事業所と医療機関との連携に関する研究-介護施設を利用する認知症高齢者の医療ニーズの実態-．平成18年度老人保健健康増進等事業　認知症高齢者の自立と尊厳を保持した生活支援のための方策に関する研究報告書，61-132，2007.
19. 酒井郁子，吉本照子，杉田由加里，吉永勝訓，湯浅美千代，綿貫成明，末永由理，遠藤淑美：回復期リハビリテーション病棟における高齢脳卒中患者のQOLを高める看護援助．平成17～18年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書，2007.
20. 森恵美，酒井郁子，手島恵，荻野雅，吉田千文編：千葉大学21世紀COEプログラム　ワークショップ「アジア文化と看護倫理教育」報告書，2007.

〔単行書〕

21. 酒井郁子：第９章 身体運動機能の低下を予防する．渡辺裕子監修，家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅱ実践編．第２版，日本看護協会出版会，200-229，2007.
22. 酒井郁子：第３章 人間関係の看護論（精神力学的看護）ヒルデガードＥ．　ペフロウ．竹尾恵子監修，超入門事例でまなぶ看護理論．第２版，学研，66-82，2007.
23. 酒井郁子：第６章 目標達成理論アイモジン・キング．竹尾恵子監修，超入門事例でまなぶ看護理論．第２版，学研，172-214，2007.
24. 酒井郁子：第１章 精神科看護実践における対人関係論　インタープロフェッショナルワーク（専門職間の連携・協働）.「実践精神科看護テキスト」編集委員会（編），実践精神科看護テキスト第２巻　対人関係グループアプローチ．精神看護出版，63-73，2007.
25. 酒井郁子：Ⅰ―Ａ 介護保険施設におけるリスクマネジメント総論．湯浅美千代（編），認知症高齢者のリスクマネジメント．すぴか書房，16-43，2007.
26. 酒井郁子：Ⅱ―Ｄ スタッフとの茶のみミーティング-主体性の尊重とエンパワメント．湯浅美千代（編），認知症高齢者のリスクマネジメント．すぴか書房，115-127，2007.

〔総説・短報・資料・その他〕

27. 森恵美，手島恵，酒井郁子，吉田千文，萩野雅，山本利江：千葉大学看護学部における日本文化を反映した看護倫理教育の先駆的試み21世紀COEプログラム「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点―実践知に基づく看護学の確立と展開」サブプロジェクトＧ「日本型倫理的推論の特徴と看護基礎教育」．千大学看紀要，29，61-66，2007.
28. 綿貫成明，酒井郁子，寺内英真：【急性期病院におけるせん妄ケアの改善とシステム化】自分から変わる，今から帰る「せん妄ケア」の考え方．看護管理，17(7)，566-573，2007.
29. 瀧口章子，笹本喜美江，薦田しず江，若菜幸子，酒井郁子：【急性期病院におけるせん妄ケアの改善とシステム化】大学病院におけるせん妄ケア改善のプロセス　研究会での事例検討から現場へ．看護管理，17(7)，574-580，2007.
30. 佐藤克行，北原美紀，酒井郁子：【急性期病院におけるせん妄ケアの改善とシステム化】大学病院におけるせん妄ケア改善のプロセス　現場での工夫と患者援助の変化．看護管理，17(7)，581-587，

2007.
31. 岡本真知子，大沼夏紀，箱崎恵理，酒井郁子：日本語版ニーチャム混乱・錯乱スケールを使用する際の評定者間の一致度に関する実態調査．第37回日看会論文（成人看護）．166-167，2007.
32. 吉田千文，酒井郁子，綿貫成明：保健医療施設におけるせん妄ケアと看護師の体験する困難　せん妄ケアシステム整備状況との関連．第37回日看会論文（看護管理），187-189，2007.
33. 酒井郁子：SCU,SUでの有効性の確保に必要な看護のエビデンスは何か．EB　Nursing，8(1)，55-58，2007.
34. ローリィ・N・ゴッドリーヴ，ナンシー・フィーリー，シンディー・ダルトン（吉本照子監訳，酒井郁子訳）：協働的パートナーシップによるケア　援助関係におけるバランス．エルビゼア・ジャパン，81-144，2007.
35. 茂野香おる，井上映子，八島妙子，渡邉智子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子：介護老人保健施設入居者の生活リズム調整に関する看護師のアセスメント視点．千葉県衛生短期大学紀要，25(2)，61-68，2007.
36. Ogino M., Mori E., Teshima M., Yamamoto T., Sakai I., Takahashi K. & Yoshida C.: Development of nursing ethics educational program in graduate nursing education. Asian Journal of Nursing, 10 (1), 57-58, 2007.

〔研究状況〕

平成19年４月より開設された本領域では，介護保険施設や回復期リハビリテーション病院等のケア施設における看護実践開発や看護システム管理に向けた教育研究を行っている．

酒井は，COEサブプロジェクトＡ「日本型対人援助関係」，サブプロジェクトＤ「身体機能調整」，サブプロジェクトＧ「日本型倫理的推論の特徴と看護基礎教育」における研究の継続と知見の報告と発表を行った（14，20，27，36）．また，平成17～18年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））「回復期リハビリテーション病棟における高齢脳卒中患者のQOLを高める看護援助」の報告書を提出した（19）．本年度より新たに平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））を得て「高齢脳卒中患自我発達を支える学習教材の開発」の研究に着手し経過報告を行った（６，８）．

また，酒井は認知症予防プログラムの開発（９，10，11，12，13）やリハビリテーション専門特化型訪問看護ステーションの看護基準の開発を行い，報告書を作成した（17）．さらに，せん妄ケアに関する著書や雑誌記事等の執筆（28，29，30，31，32），科学研究費助成事業の報告事業としてリスクマネジメントに関する著書の執筆を行った（25，26）．

飯田は，King's College London Institute of Gerontology修士課程を修了し，修士論文「Community nurses' roles in supporting caregivers under the Long-Term Care Insurance System in Japan」の報告に向けて取り組んでいると同時に，ケア施設における高齢者の肺炎発症の実態に関する研究着手に向けた準備を行っている．

COEフェロー

〔原　著〕

１．張平平，正木治恵：高齢患者の服薬アセスメントツールの開発-中国での活用を前提として-．老年看護学，11(2)，48-55，2007.
２．張平平，正木治恵：老年病人服薬能力評估量表的実用性研究．中華現代看護雑誌，第155期，1-4，2007.
３．望月由紀：日本の看護研究における共感概念についての検討．千大看紀要，29，1-8，2007.

〔学会発表抄録〕

４．井出成美，佐藤紀子，山田洋子，細谷紀子，本間靖子，宮﨑美砂子：高齢者のみ世帯で生活する高齢者のエンパワメントの内容．日本地域看護学会第10回学術集会講演集，185，2007.

5．井出成美，佐藤紀子，山田洋子，細谷紀子，本間靖子，嶋澤順子，鶴岡章子，木暮みどり，榊原理恵子，宮﨑美砂子：健康高齢者の社会的サポートネットワークと介護予防支援．第66回日公衛会講演集，511，2007．
6．山田洋子，井出成美，宮﨑美砂子，大澤真奈美：文化的視点を考慮した生活習慣病予防活動の方法−文献にみる保健師の実践知の統合−．第66回日公衛会講演集，383，2007．
7．本間靖子，佐藤紀子，宮﨑美砂子，細谷紀子，山田洋子，井出成美，嶋澤順子，鶴岡章子：エンパワメントと社会的サポートネットワークの概念の関係性の検討−文献検討より−，第66回日公衛会講演集，512，2007．
8．杉田由加里，井出成美，佐藤紀子：介護予防に関わる地域特性を反映させた保健師の活動内容．第66回日公衛会講演集，535，2007．
9．榊原理恵子，井出成美，佐藤紀子，宮﨑美砂子，山田洋子，細谷紀子，本間靖子，木暮みどり，鶴岡章子，嶋澤順子：健康度の高い高齢者の健康生活の実態−A市75歳高齢者の健康生活実態調査より（第一報）−，日本地域看護学会　第10回学術集会講演集，111，2007．
10．山田洋子，井出成美，佐藤紀子，宮﨑美砂子，細谷紀子，本間靖子，榊原理恵子，木暮みどり，鶴岡章子，嶋澤順子：健康度の高い高齢者の社会的サポートネットワークの検討−A市75歳高齢者の健康生活実態調査より（第二報）−．日本地域看護学会　第10回学術集会講演集，112，2007．
11．佐藤紀子，井出成美，宮﨑美砂子，山田洋子，細谷紀子，本間靖子，榊原理恵子，木暮みどり，鶴岡章子，嶋澤順子：健康度の高い高齢者のエンパワメントに関連する他者との交流状況の検討−A市75歳高齢者の健康生活実態調査より（第三報）−．日本地域看護学会第10回学術集会講演集，113，2007．
12．Yamada Y., Ide N., Miyazaki M.: Public health nurses' practical knowledge in preventive activities against lifestyle–related diseases–A meta–synthesis study–. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, p 2. 147, 2007.
13．Osawa M., Yamada Y., Ide N. & Miyazaki M.: A Method for Lifestyle–Related Diseases Prevention Activities with regard to Cultural Viewpoints. The 1st Korea–Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 181, 2007.
14．井出成美：高齢者のエンパワメントと社会的サポートネットワーク−フィンランドとの共同研究から−．千葉大学21世紀COEプログラム第４回国際シンポジウム抄録集，34−35，2007．
15．井出成美：地域住民の価値観と生活環境を反映した介護予防サービスの提供−保健師による健康文化創成−．千葉大学21世紀COEプログラム第４回国際シンポジウム，抄録集，43，2007．
16．Takahashi Y., Masaki H., Shimizu Y. Zhang P., & Kawai N.: Extracting cultural element within the process of development a health education class for pre–diabetic people: Analysis the awareness of the body. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, CD−ROM, C−100−C, 2007.
17．張平平，長瀬明日香，高橋良幸，正木治恵：日本と中国における糖尿病患者の身体の捉え方に関する文化差の考察−千葉大学21世紀COE拠点：日本文化型看護学の創出と国際発信−．日本糖尿病教育・看護学会誌，72（11）特別号，2007．
18．鳥田美紀代，張平平，臼井理恵，高山紘子，谷本真理子，正木治恵：地域文化に根ざした認知症予防教室の開発と実施．日本老年看護学会第12回学術集会，205，2007．
19．張平平，谷本真理子，正木治恵：高齢患者の服薬能力に対する看護師の自己評価に関する中日比較．第27回日看科会学術集会講演集，379，2007．
20．張平平：文化に根ざした認知症予防教室の開発過程における日中比較．千葉大学21世紀COEプログラム第４回国際シンポジウム抄録，32−33，2007．
21．張平平：中国と日本における高齢患者の服薬に関する文化差の考察−高齢患者と看護師の価値観に焦点をあてて−．千葉大学21世紀COEプログラム第４回国際シンポジウム抄録，42，2007．
22．陳東，森恵美：初めての子育てに対する親の受けとめ．第９回日本母性看護学会学術集会抄録集，64，2007．
23．陳東，森恵美：乳幼児を持つ母親の子育て観と子育てに対する認知的評価の関係探索研究．第48回日本母性衛生学会学術集会抄録集，214，2007．
24．陳東：子育て観の日中比較から見た文化的視点．千葉大学21世紀COEプログラム第４回国際シンポ

ジウム抄録，30-31，2007.

25. 望月由紀，井出成美，張平平，陳東，吉田千文，吉永亜子：文化看護学の創出に向けて．千葉看第13回学術集会集録，32，2007.
26. 植田彩，辻村真由子，岡本有子，園田芳美，松浦志野，望月由紀，石垣和子：国内文献にみられる排泄に関する看護過程のメタ統合-身体性に着目して-．第26回日看科学学術集会講演集，375，2007.
27. Ogino M., Mori E., Teshima M., Yamamoto T., Sakai I., Takahashi K. & Yoshida C.: Development and evaluation of a nursing ethics educational program for graduate schools. 10th East Asian Forum of Nursing Scholars Annual Conference, 68, 2007.
28. Yoshida C., Mori E., Teshima M., Sakai I., Yamamoto T., Ogino M. & Takahashi K.: Ethical issues in nursing management: critical care in Japan. International Council of Nursing Conference 2007, ICN, C745-B, 2007.
29. 石橋みゆき，佐瀬真粧美，吉田千文：看護師が行う退院支援の実態と現任教育の課題．第38回日看会抄録（看護教育），116，2007.
30. 吉田千文，酒井郁子，手嶋恵，荻野雅：インフォメーション・エクスチェンジ「看護倫理を推進するための看護管理者の取組み」．第11回日本看護管理学会年次大会抄録集，138，2007.
31. Yoshida C.: Physician' Ethical Decision Making in Critical Care: A Pilot Study. West China International Nursing Conference 2007, 85-87, 2007.
32. 佐瀬真粧美，吉田千文，石橋みゆき：看護師の行う退院支援と組織的取組み・学習との関連，第38回日看会抄録（地域看護），146，2007.
33. 吉田千文，佐瀬真粧美，石橋みゆき：看護師の行う退院支援と組織的取組みに関する実態-２県での調査結果から．第38回日看会抄録（地域看護），147，2007.
34. 吉永亜子，田中裕二：足浴が直腸温変化を介して睡眠を促す作用の検討．日本看護技術学会第６回学術集会講演抄録集，69，2007.
35. 吉永亜子：睡眠援助としての足浴-日本で睡眠援助へ進展した経緯と文化的背景．千葉大学21世紀COEプログラム第４回国際シンポジウム抄録，50-51，2007.

〔報告書〕

36. 井出成美：高齢者のみ世帯で暮らす高齢者の他者からのサポートとエンパワメント．平成18年度千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，191-196，2007.
37. 井出成美：日本の高齢者の社会的サポートネットワークとエンパワメント―75歳健康高齢者への調査結果から-.「日本型地域健康支援」サブプロジェクトＣ企画　シンポジウム「高齢者のエンパワメントと地域のサポートネットワーク―地域文化に根ざした介護予防実践に向けて-」報告書，16-21，2007.
38. 張平平：中国と日本における高齢患者の服薬能力に関する文化差の考察．平成18年度千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，205-210，2007.
39. 田所良之，高橋良幸，山本則子，張平平：異文化生活体験者からみた日本文化型看護．千葉大学21世紀COEプログラム平成18年度横断研究拠点報告書，141-142，2007.
40. 陳東：乳幼児を持つ母親の子育て観と子育てに対する認知的評価の関係探索研究．平成18年度千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，211-216，2007.
41. 望月由紀：共感と道徳性-看護研究における共感研究を通して-．平成18年千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，223-228，2007.
42. 森恵美，手島恵，山本利江，酒井郁子，荻野雅，吉田千文（編）：ワークショップ「アジア文化と看護倫理教育」報告書．2007.
43. 吉田千文，小池智子：看護師による静脈注射の導入・システム化過程と病院組織文化の関係．平成18年千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，127-128，2007.
44. 吉田千文，森恵美：平成18年度海外出張報告　中華人民共和国（蘇州）．平成18年千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書，167-171，2007.
45. 吉永亜子：足浴が直腸温変化を介して睡眠を促す作用の検討．平成18年度千葉大学21世紀COEプロ

グラム拠点報告書．229-233，2007．

〔単行書〕

46．吉田千文：序，第Ⅰ部 9．支持療法と処置，第Ⅲ部 14．栄養状態の変化，第Ⅳ部 37 バイオセラピーと分子標的療法における看護，第Ⅳ部 40．造血幹細胞移植における看護．Joanne K. Itano, Karen N. Taoka著（小島操子，佐藤禮子監訳，日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員訳），がん看護コアカリキュラム． 医学書院，xiii-xiv，112-130，221-252，613-634，655-670，2007．

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

47．張平平，正木治恵：中国における認知症高齢者看護の現状と課題-文献検討を通して-．千大看紀要，29，67-71，2007．

48．松浦志野，石垣和子，辻村真由子，植田彩，岡本有子，園田芳美，望月由紀，吉永亜子，高橋久一郎：看護実践における身体性を考える．千葉看会誌，13(1)，128-133，2007．

49．森恵美，手島恵，酒井郁子，吉田千文，荻野雅，山本利江：千葉大学看護学部における日本文化を反映した看護倫理教育の先駆的試み．千大看紀要，29，61-66，2007．

50．吉田千文：せん妄ケアとこれからの病院経営-2006年度診療報酬改定をめぐって．看護管理，17(7)，588-593，2007．

51．吉田千文，酒井郁子，綿貫成明：保健医療施設におけるせん妄ケアと看護職者の体験する困難-せん妄ケアシステム整備状況との関連．第37回日看会論文（看護管理），187-189，2007．

52．吉永亜子，吉本照子：足浴が頭痛を緩和する看護技術から睡眠をうながす技術へと進展した背景要因．日本看護技術学会誌，6(1)，70-77，2007．

53．吉永亜子：睡眠を促すケアとしての足浴の可能性　文献検討から．臨牀看護，33(14)，2107-2113，2007．

〔研究報告〕

●井出は以下の研究を行った．

1．COE平成18年度特別奨励研究により実施した「高齢者のみ世帯で生活する高齢者のエンパワメント」を報告書にまとめると共に，学会発表した（4，36）．

2．COEサブプロジェクトC「日本文化型地域健康支援」において，平成17年度より継続して実施してきた，行政保健師の予防活動における実践知のメタ統合に関する複数の研究成果を，他のプロジェクトメンバーとともに学会発表した（6，8，12，13）．

3．COEサブプロジェクトC「日本文化型地域健康支援」において，平成16年度より継続して実施してきた，フィンランドとの共同研究「地域の社会的サポートネットワークと高齢者のエンパワメントを促進する看護援助」について，その成果をまとめ，他のプロジェクトメンバーとともに学会発表すると共に，第4回COE国際シンポジウム等において発表した（5，7，9，10，11，14，37）．

4．平成18年度から継続して実施してきたCOE横断研究「乳幼児期の子どもをもつ家族への育児支援プログラムの開発―地域における包括的家族支援プログラムへの提言―」の研究メンバーとして，本年はプログラムの効果の評価にとりくんだ．

●張は，以下の研究を行った．

1．サブAの国際共同研究について：本COEプログラムのサブプロジェクトAでは，糖尿病予防と認知症予防に関する国際共同研究を中国の北京大学看護学院と行っている．今までの研究成果を千葉大学看護学部紀要（47）にまとめたり，国内・国際の看護学会で発表したりした（16，17，18，20）．

2．特別研究について：前年度の特別研究奨励費による個人研究の結果を踏まえて（1，2，19，38），今年度は，日本と中国における高齢患者の服薬指導の指針作成に向けての「高齢患者の服薬能力向上を目指した看護援助方法の探索―高齢患者と看護師の価値観に焦点をあてて―」に取り込んだ（21）．

3．横断研究について：在日外国人へのインタビューを基に「異文化生活体験者からみた日本文化型対人援助関係」と「異文化生活体験者からみた日本文化型スキンケア」に焦点をあてた横断研究に関わっ

た（39）.

●陳は，以下の研究を行った.

1．平成17年度特別奨励研究の研究成果の一部として，「初めての子育てに対する親の受けとめ」について発表した（22）.

2．平成18年度特別奨励研究の研究成果として，「乳幼児を持つ母親の子育て観と子育てに対する認知的評価の関係探索」について発表し（23），報告書にまとめた（40）.

3．COEサブプロジェクトB「日本文化型家族支援」の一環として，「子育て観と夫婦関係に関する日中共同研究」を共同で行った．乳幼児を持つ親の子育て観の文化的差異や日中比較を通して見えた文化的視点について発表した（24，25）．また，乳幼児を持つ親の子育て観の日中比較の結果等について国際学会（ICM）で発表する予定である.

4．COEプロジェクトで得られた平成19年度特別奨励研究により「日本における母親の早期育児支援を目的としたアセスメント指標の作成」を行っている．その成果の一部として，国際学会（EAFONS）で発表する予定である.

●望月は，以下の研究を行った.

1．平成17年度に引き続き，患者–看護師間のコミュニケーションにおける「共感」について，日本の看護学における共感概念の分析と，共感性尺度を使用した看護師の共感性の測定の結果を分析することによって，看護学における共感概念のとらえ方について研究を行った（41）．その成果は原著として発表した（3）.

2．COEサブプロジェクトC「日本型地域健康支援」訪問看護グループ行動ルール班において，日本の看護師の特徴的な行動ルールを明らかにするために研究を行っている．平成17年度に行ったインタビュー調査を元に行動ルール調査票を作成し，現在各国にてデータ収集，およびそのデータの解析中である.

3．COEサブプロジェクトD「身体機能調整」排泄援助グループにおいて，「排泄ケアにおける看護実践知」の解明を目的に，文献のメタ分析を行った．その成果は学会にて発表した（26）.

4．COEプログラムの成果として，文化に根ざした看護学としての「文化看護学」を創出するにあたり，その概念定義，および内容の精査を目的に研究を行った（25，48）.

●吉田は，COEプログラムのサブプロジェクトG「日本型倫理的推論の特徴と看護基礎教育」及びサブプロジェクト「医療組織文化」に所属しそれぞれの共同研究に関わるとともに，COE平成19年度特別奨励研究費の補助をうけ個人研究を行った.

1．サブプロジェクトGでは，基礎教育課程及び大学院における看護倫理教育プログラムの開発と効果に関する研究に取り組んだ（27）．今年度から必修科目となった「看護倫理」については，プログラムの改訂，実施に際して，研究者の立場から看護倫理担当教員と協働した．また，クリティカルケアにおける看護倫理の問題について昨年度から引き続き研究を継続し（25），中国のクリティカルケアにおける状況を検討するとともに（44），倫理的な看護実践を推進するための看護管理の課題を明らかにした（28，30）.

2．サブプロジェクト「医療組織文化」では，『看護師による静脈注射の導入・システム化過程と病院組織文化の関係』研究の中間報告をまとめた（43）.

3．個人研究として，サブプロジェクトでの看護倫理研究及び医療組織文化研究から着想を得て，クリティカルケアにおける医師の倫理的意思決定（31），せん妄ケア（50，51）および，退院支援の問題について調査を行いその結果を発表した（29，32，33）.

4．日本がん看護学会教育研究活動委員会によるがん看護コアカリキュラムの共同翻訳と翻訳校閲に係わった（46）.

●吉永は，以下の研究をおこなった.

1．足浴の睡眠を促す機序を実証するための基礎実験を行った．具体的には，睡眠援助の対象と想定している“60歳以上”の人に，“湯なし”を含む4種類の湯温条件で足浴を実施し，足浴前に比べて足浴中や足浴後の安静時に，睡眠が起こるか，深部体温，皮膚温，自律神経がどのように変化するか，また，身体的精神的変化はどのように自覚されているかを調べた．現在解析中である（34，45）.

2．「横断的」に日本と英語圏の看護援助を比較して日本に特有の“睡眠援助としての足浴”を見いだし，

「縦断的」にこの援助が日本で生まれた歴史的経緯や文化的背景を検討し，更に「睡眠を促す効果」という観点からこの援助の文化的側面を検討することにより，１つの日本的な看護援助に反映されている文化的側面を検討した（25，35，52，53）．

３．サブD「身体機能調整」班の一員として，身体性の内容の精査を目的にディスカッションを行った(48)．